取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

WISH

TABLE OF CONTENTS
目次

1	運転する前に	運転するまでに必要となる操作、ご注意が説明してあります。（ドアの開閉、シートの調整、チャイルドシートの取り扱いなど）
2	運転するときに	走行、停止の方法や安全運転の方法が説明してあります。（エンジンのかけ方、メーターの見方など）
3	室内装備の使い方	室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。（室内灯のつけ方、室内装備の使い方など）
4	お手入れのしかた	お車のお手入れ、メンテナンスに関する方法が説明してあります。（内・外装の手入れ、電球の交換など）
5	トラブルが起きたら	故障やパンクしたときなど、万一のときの対処に関する説明がしてあります。（けん引について、警告灯がついたときの対処など）
6	車両の仕様	お車の仕様やカスタマイズ機能に関する情報が記載してあります。（指定燃料、各オイル量、カスタマイズ項目など）
	さくいん	本書に記載されている情報を五十音順などの方法で探すことができます。

TABLE OF CONTENTS | 目次

1 運転する前に

1-1. キーの取り扱い

キー 20

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた

スマートエントリー＆スタートシステム 24
ワイヤレスリモコン 35
ドア 38
バックドア 41

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

フロントシート 47
セカンドシート 49
サードシート 55
ヘッドレスト 57
シートアレンジ 59
シートベルト 73
ハンドル 81
インナーミラー 82
ドアミラー 83

1-4. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方

パワーウインドウ 86
ムーンルーフ 89

1-5. 給油のしかた

給油口の開け方 95

1-6. 盗難防止システム

エンジンイモビライザーシステム 99

1-7. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢 100
SRS エアバッグ 102
子供専用シート 111
チャイルドシートの取り付け. 121

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた

運転にあたって 130
エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム装着車） 140
エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車） 145
オートマチックトランスミッション 148
方向指示レバー 153
パーキングブレーキ 154
ホーン（警音器） 155

2-2. メーターの見方

計器類 156
表示灯／警告灯 160
ドライブモニター 164

2-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ........................ 168
フロントフォグランプスイッチ................................ 172
ワイパー & ウォッシャー（フロント）............................ 173
ワイパー & ウォッシャー（リヤ）.................................... 177

2-4. その他の走行装置の使い方
4WD オートモード................ 179
クルーズコントロール............ 180
運転を補助する装置................ 184

2-5. さまざまな状況での運転
荷物を積むときの注意............ 190
寒冷時の運転........................... 192

3 室内装備の使い方

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方
オートエアコン........................ 198
リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）............................ 206
ウインドシールドデアイサー............................ 208

3-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧............................... 209

3-3. 収納装備の使い方
収納装備一覧........................... 214

3-4. その他の室内装備の使い方
サンバイザー........................... 226
バニティミラー........................ 227
時計... 228
アクセサリーソケット............ 229
フロアマット........................... 230
買い物フック........................... 232
アシストグリップ.................... 233
ステアリングスイッチ............ 234
ラゲージルーム........................ 236

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた
外装の手入れ........................... 240
内装の手入れ........................... 244
タイヤについて........................ 246

4-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット............................... 251
ガレージジャッキ.................... 253
電球（バルブ）の交換............ 256
ヒューズの点検、交換............ 270
キーの電池交換........................ 277
ウォッシャー液の補給............ 281
エアコンフィルターの交換..... 283

1
2
3
4
5
6

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

故障したときは........................ 286
非常点滅灯
(ハザードランプ)................ 287
発炎筒 288
けん引について........................ 290

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは 294
パンクしたときは
(応急用タイヤ装着車).......... 301
パンクしたときは
(タイヤパンク応急修理キット
装着車)................................. 313
エンジンが
かからないときは 328
シフトレバーが
シフトできないときは.......... 330
キーを無くしたときは 331
電子キーが正常に働かないときは
(スマートエントリー&スタート
システム装着車)................... 332
バッテリーが
あがったときは 334
オーバーヒートしたときは..... 338
スタックしたときは 340
車両を緊急停止するには 342

6 車両の仕様

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(油脂類の容量と
銘柄など)............................... 346

6-2 . カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧 354

さくいん

略語一覧

アルファベット略語一覧......... 358

五十音順さくいん

五十音順さくいん 359

症状別さくいん

症状別さくいん 367

外観

ワイパー P. 173
ドアミラー P. 83
車幅灯 P. 168
ボンネット P. 251
BTO00CS001
ヘッドランプ（ロービーム）P. 168
フォグランプ ＊ P. 172
ヘッドランプ（ハイビーム）P. 168
方向指示灯 P. 153

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内

コンソールボックス ＊
P. 216
運転席 SRS エアバッグ P. 102
ヘッドレスト P. 57
シフトレバー P. 148
シートベルト P. 73
小物入れ P. 222
助手席アッパートレイ
P. 215
A
助手席 SRS
エアバッグ
P. 102
B
グローブボックス
P. 215
フロントシート P. 47
SRS サイドエアバッグ
P. 102
カップホルダー P. 218
セカンドシート P. 49
サードシート P. 55
BTO00CS003

A

サンバイザー（助手席）P. 226

バニティミラー
（助手席）P. 227

ムーンルーフスイッチ＊ P. 89

パーソナルランプ P. 211

SRS カーテンシールドエアバッグ　P. 102

バニティミラー（運転席）P. 227

アシストグリップ P. 233

BTO00CS004

サンバイザー（運転席）P. 226

ルームランプ P. 213

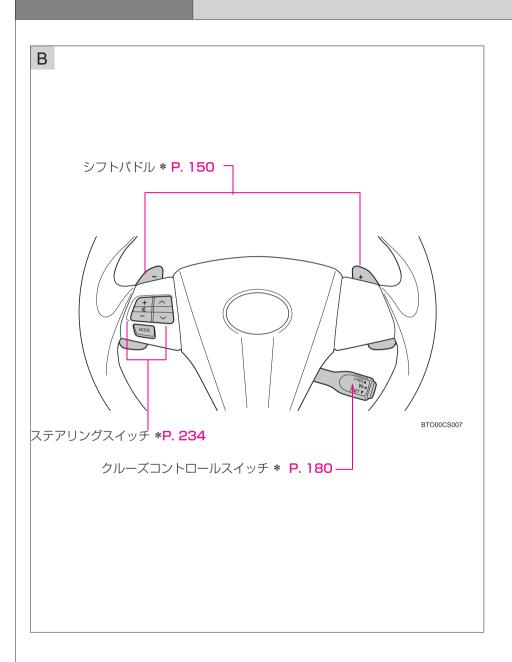
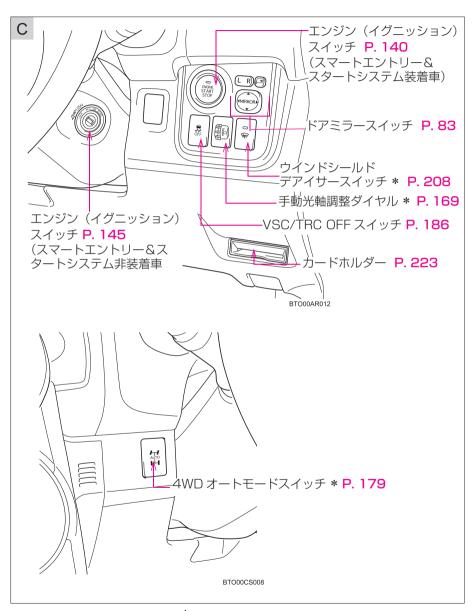
インナーミラー P. 82

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

インストルメントパネル

A

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

B
シフトパドル ＊ P. 150
MODE
CANCEL
+RES
SET
BTO00CS007
ステアリングスイッチ ＊P. 234
クルーズコントロールスイッチ ＊ P. 180

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

● トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

● 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

● フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

· エンジン回転数
· アクセルの操作状況
· ブレーキの操作状況
· 車速
· シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

· お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
· 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
· 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。

EDR は次のようなデータを記録します。

・ 車両の各システムの作動状況
・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。
(法律で義務付けられています。)

警告

■お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター・発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付けかたなどをまとめた「チャイルドシートの取り付け」(→P. 121)をお読みください。

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

⚠警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠注意

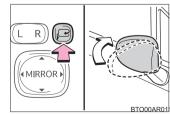
ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティーシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

➡ スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

⇨ 操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

1-1. キーの取扱い

キー.......... 20

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた

スマートエントリー＆スタートシステム.......... 24
ワイヤレスリモコン.......... 35
ドア.......... 38
バックドア.......... 41

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

フロントシート.......... 47
セカンドート.......... 49
サードシート.......... 55
ヘッドレスト.......... 57
シートアレンジ.......... 59
シートベルト.......... 73
ハンドル.......... 81
インナーミラー.......... 82
ドアミラー.......... 83

1-4. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方

パワーウインドウ.......... 86
ムーンルーフ.......... 89

1-5. 給油のしかた

給油口の開け方.......... 95

1-6. 盗難防止システム

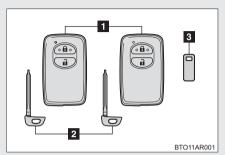
エンジンイモビライザーシステム.......... 99

1-7. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢.......... 100
SRS エアバッグ.......... 102
子供専用シート.......... 111
チャイルドシートの取り付け.......... 121

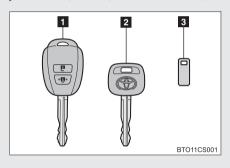
キー

お客様へ次のキーをお渡しします。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

1 電子キー
- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 24）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 35）

2 メカニカルキー

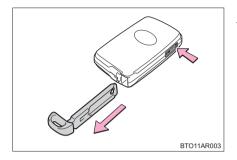
3 キーナンバープレート

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

1 キー（ワイヤレス機能装着）

ワイヤレス機能の作動（→P. 35）

2 キー（ワイヤレス機能非装着）

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P. 332)

知識

■キーナンバープレート

車内以外の安全な場所(財布の中など)に保管してください。万一キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。(→P. 331)

■航空機に乗るときは

航空機に電子キー・ワイヤレスキーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■**キーの故障を防ぐために**

電子キーは精密機器です。次のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高い所に長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄機などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■**電子キーについて**

電子キー・ワイヤレスキーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■**キーを携帯するときは**

電源を入れた状態の電化製品とは10 cm以上離して携帯してください。10 cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

注意

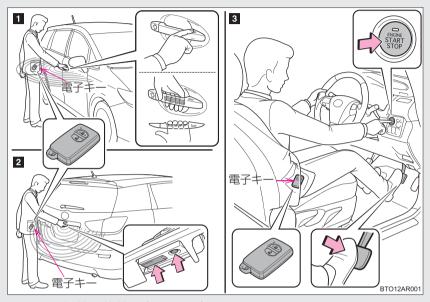
■**スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくときは**

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■**キーを紛失したときは**

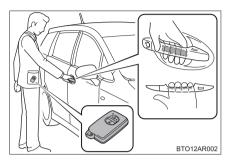
キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りのキーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

スマートエントリー&スタートシステム *

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。（必ず運転者が携帯してください）

1 ドアの解錠・施錠　（→P. 25）
2 バックドアの解錠・施錠　（→P. 25）
3 エンジンの始動　（→P. 140）

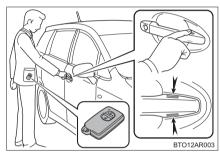
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠・施錠（フロント席ドアハンドルのみ）

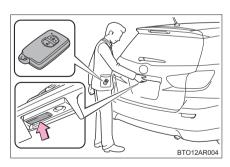
BTO12AR002

ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後３秒間は解錠できません。

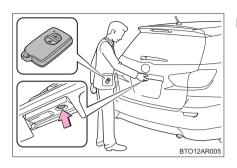
BTO12AR003

ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

バックドアの解錠・施錠

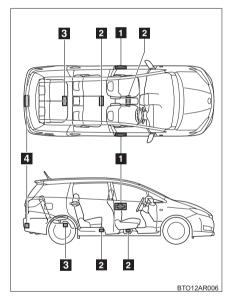
BTO12AR004

バックドアオープンスイッチを押して解錠する

バックドアオープンスイッチを約 1 秒押し続けると、バックドアロックを解除します。

施錠操作後３秒間は解錠できません。

車から離れるときは、バックドアを施錠してください。バックドアを閉めても自動的に施錠されません。

ロックスイッチを押して施錠する

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

1 車外アンテナ

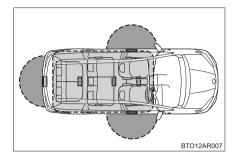
2 車内アンテナ

3 ラゲージルーム内アンテナ

4 ラゲージルーム外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

BTO12AR007

:ドアの施錠・解錠時

フロント席ドアハンドルおよびバックドアハンドルから周囲約70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

:エンジン始動時またはモード切りかえ時

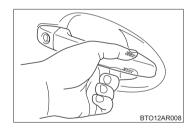
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■ ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないときは

BTO12AR008

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した。
・5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった。
・14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。(→P. 31)

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。

・テレビ
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機やその充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■システムを正しく作動させるために

必ず電子キーを携帯した上でスマートエントリー＆スタートシステムを作動させてください。

■電子キーの検知に関する留意事項

●車外から操作する場合は電子キーを車に近付けすぎないようにしてください。作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤ってブザーが鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かない場合があります）

●電子キーが作動範囲内にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・電子キーがインストルメントパネルやフロア上、またはグローブボックス内などに置かれている場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

■スマートエントリー＆スタートシステム特有の留意事項

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。

●電子キーが作動範囲内にある場合に洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。

●電子キーが車室内または車両に近い位置にある場合にワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。この場合は、ワイヤレスリモコンを使って解錠してください。

■施錠時の留意事項

●手袋を着けてロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーにふれてください。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効で、3 回目以降はロック動作しません。

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（キーの盗難に注意してください）

●車室内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、車室外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すればブザーは止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。

●ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないように注意してください。

■解錠時の留意事項

●急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠できない場合があります。解除されなかった場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、再度解錠操作をして、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●手袋を着けてドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。

●作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないときは

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2 m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートスタート＆エントリーシステムを非作動にすることができます。（→P. 354）

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため施錠されます。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、警告灯が点灯することがあります。警告灯が点灯した場合は、状況に応じて適切に対処してください。（→P. 298）
警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを持ち出したあと、再度施錠してください。
	電子キーを車内に置いたまま、ロックレバーを施錠側にしたあと、ドアハンドルを引いたままドアを閉めた	ドアを解錠し、車内から電子キーを持ち出したあと、再度施錠してください。
車内から“ピー”と 1 回鳴る	電子キーの電池の残量が少ない	新しい電池と交換してください（→P. 277）
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	シフトレバーが P で“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに、運転席ドアを開けた	・“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にし、ステアリングがロックされていることを確認してください。 ・ 運転席ドアを閉めてください。
車内から“ピー”と鳴り続ける	シフトレバーが P 以外で“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに、運転席ドアを開けた	・“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてください。 ・シフトレバーを P にしてください。 ・ 運転席ドアを閉めてください。

■車両バッテリー脱着時の留意事項

●車両バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●車両バッテリー脱着後、最初のエンジン始動は失敗することがあります。
2 回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題はありません。

●車両は常に“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリー脱着前の“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態が不明な場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないときは

●ドアの解錠、施錠：→P. 332

●エンジン始動：→P. 332

■電池が切れたときは

→P. 277

■販売店で設定可能な機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(ユーザーカスタマイズ機能一覧 →P. 354)
スマートエントリー&スタートシステムを非作動にした場合のドアの施錠・解錠、エンジンの始動方法などは「電子キーが正常に働かないときは」(P. 332) を参照してください。

警告

■電波がおよぼす影響についての警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、スマートアンテナ（→P. 26）から 22 cm 以内に植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器が近付かないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくは販売店にお問い合わせください。

注意

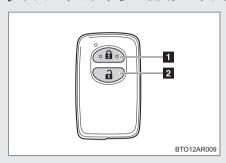
■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。
次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 332）

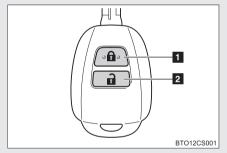
- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器が電子キーの近くにあるとき
- 電子キーが次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
  - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
  - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
  - ・金属製の財布やかばん
  - ・小銭
  - ・カイロ
  - ・CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような製品と同時に携帯しているとき
  - ・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
  - ・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
  - ・デジタルオーディオプレーヤー
  - ・ポータブルゲーム機
- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき

ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

知識

■作動の合図

ブザー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）と非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■半ドア警告ブザー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

ドアが完全に閉まっていない状態で、ドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■電池の消耗について

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

→P. 28

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

電池の標準的寿命は 3 年です。（ワイヤレス機能を使用しなくても電池は消耗します）ワイヤレス機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池と交換してください。（→P. 278）

■解錠操作のセキュリティ機能

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

→P. 30

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

■電池が切れたときは

→P. 277

■機能が正常に働かないおそれのある状況（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

→P. 34

■販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
（ユーザーカスタマイズ機能一覧 →P. 354）

注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- 近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器、大型ディスプレイがあるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 複数のワイヤレスキーが近くにあるとき
- ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
- ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

ドア

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレス機能、キー、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー&スタートシステム（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

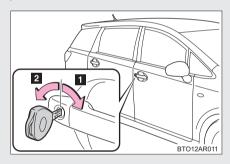
→P. 24

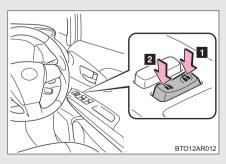
■ ワイヤレス機能

→P. 35

■ キー

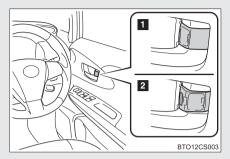
▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
メカニカルキーを使ってドアを施錠・解錠できます。（→P. 332）

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

1 全ドア施錠
2 全ドア解錠

■ ドアロックスイッチ

1 全ドア施錠
2 全ドア解錠

■ ロックレバー

1 施錠

2 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

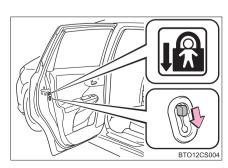
▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

電子キーの位置によって、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

キーがエンジン スイッチに差し込まれているときは施錠されません。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります

1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

⚠警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●シートベルトを必ず使用する
- ●すべてのドアを施錠する
- ●すべてのドアを確実に閉める
- ●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- ●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などのあいだが狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

バックドアは以下の方法で解錠・施錠および開けることができます。

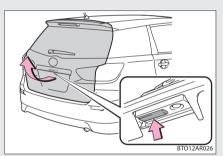
■ バックドアの解錠・施錠

▶ ドアロックスイッチ
→P. 38

▶ スマートエントリー&スタートシステム
→P. 24

▶ ワイヤレス機能
→P. 35

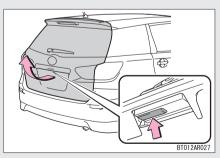
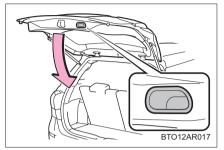
■ バックドアを開けるには

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

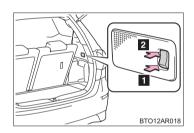
バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

バックドアを閉めるときは

BTO12AR017

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

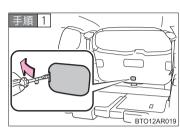
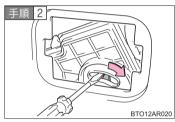
知識

■ラゲージルームランプ

BTO12AR018

スイッチを ON にしておくとバックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

1 ON
2 OFF

■バックドアが開かなくなったら

バックドアを内側から開けることができます。

カバーをはずす

レバーを押す

警告

■走行中の警告

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたままにしておくと、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■**バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

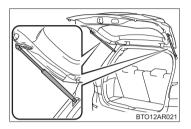
- バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないように十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や指を挟むおそれがあります。
- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが落下し、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

注意

■バックドアダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をダンパーステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ●ロッド部を軍手などでふれない
- ●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない
- ●ダンパーステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

フロントシート

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 シート全体の上下調整（運転席）

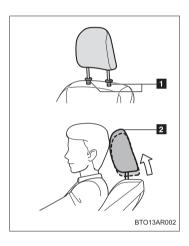
アームレスト

使用するときは、アームレストをいっぱいまで前方に倒す。

知識

■アクティブヘッドレストについて

背もたれに強い衝撃を受けると、フロント席乗員のむち打ちの症状を軽減させるためにヘッドレストが少し前方上側に動きます。

●背もたれに弱い衝撃を受けてもヘッドレストが動く場合がありますが、故障ではありません。

●解除ボタンを押さずにヘッドレストを無理に押し上げると、ヘッドレストの構造部品が出てきますが、故障ではありません。

1 構造部品

2 作動状態

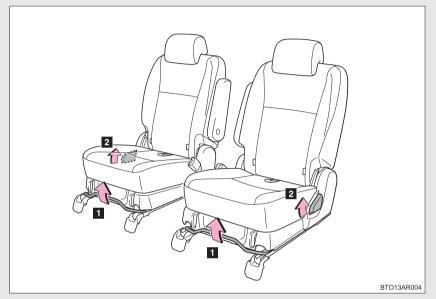
警告

■シート調整について

●シートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。

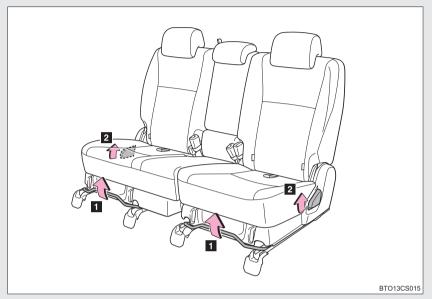
●背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

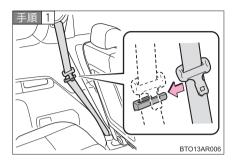
セカンドシート

▶ 6 人乗りシート装着車

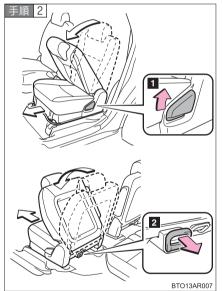
1 前後位置調整

2 リクライニング調整

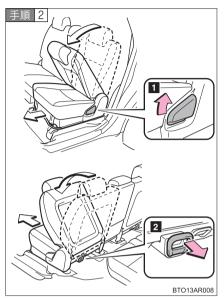
▶ 7 人乗りシート装着車

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

サードシートへの乗り降り

サードシートに乗り降りするときは、セカンドシートベルトをクリップに挟む

▶ 6 人乗りシート装着車

リクライニングレバー（1）を引く、またはリクライニングベルト（2）を引く

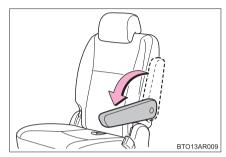
背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動させることができます。

▶ 7 人乗りシート装着車

リクライニングレバー（1）を引く、またはリクライニングベルト（2）を引く

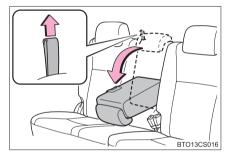
背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動させることができます。

アームレスト

▶ 6 人乗りシート装着車

BTO13AR009

使用するときは、アームレストをいっぱいまで前方に倒す

▶ 7 人乗りシート装着車

BTO13CS016

中央席のベルトを引き、ロックを解除してアームレストを前方に倒す

警告

■**シート調整について**

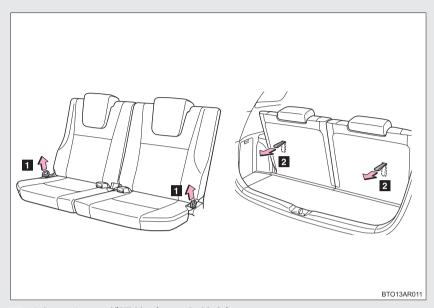
●シートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■**サードシートへの乗り降りについて**

●サードシートへ乗り降りしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。

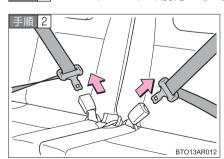
●サードシートに乗り降りしたあとにセカンドシートに乗車するときは、必ずセカンドシートベルトをクリップからはずしてください。

サードシート

1 リクライニング調整（シート前方）

2 シート前倒し（シート裏側）

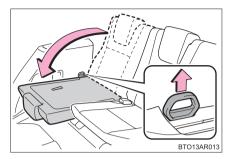
ストラップを引くとロックが解除され、シートを前に倒すことができます。（→P. 67）

サードシートを前に倒し、折りたたむ前に

手順 1 セカンドシートを前方に移動する

サードシートベルトが取りはずされているのを確認する

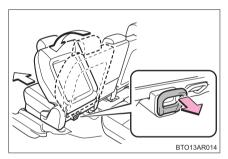
手順 3 ヘッドレストをいちばん下に下げる（→P. 57）

サードシートの前倒し

BTO13AR013

リクライニングベルトを引きながら、背もたれを前方に倒す

もどすときは背もたれを起こし、固定してください。

サードシートからのセカンドシートの操作について

BTO13AR014

セカンドシートを前後へ移動する

セカンドシート背もたれの下側にあるリクライニングベルトを引きながら、セカンドシートを前後に動かします。

警告

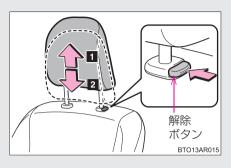
■シート調整について

- シートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■サードシートからのセカンドシートの操作について

セカンドシートに乗員がいるときは操作をしないでください。
セカンドシートの乗員がけがをするおそれがあります。

ヘッドレスト

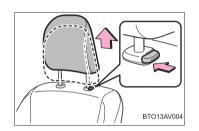
BTO13AR015

1 上がる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

知識

■ヘッドレストを取りはずすときは

BTO13AV004

解除ボタンを押しながら取りはずします。

■フロント席のヘッドレストの高さについて

BTO13AR016

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■リヤ中央席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

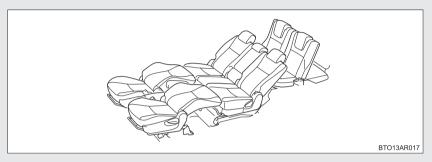
- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートアレンジ

シートは状況に応じて次のようなアレンジを行うことができます。
それぞれの説明ページを読んでから行ってください。

■ リラックスモード

● フロントシートをフラットにする
（→P. 61）

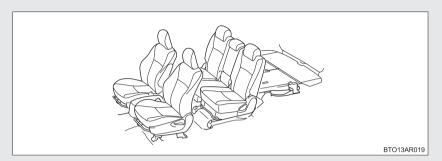
BTO13AR017

■ セカンドシートダブルフォールディング

● セカンドシートを格納する（テーブルモード）
（→P. 62）

BTO13AR018

■ サードシートの前倒し

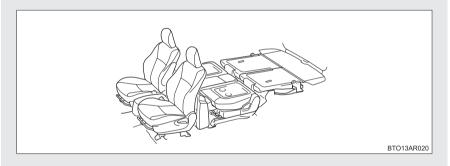
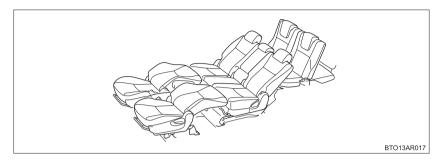
● サードシートを格納する（→P. 67）

BTO13AR019

■ ビックカーゴモード

● セカンドシートとサードシートを格納する（→P. 70）

BTO13AR020

リラックスモードにする

BTO13AR017

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

手順 2 フロントシートおよびセカンドシートのアームレストを使用しているときは、格納（いちばん上に上げる）する（→P. 47、P. 53）

手順 3 フロントシートのヘッドレストをはずす（→P. 57）

手順 4 セカンドシートをいちばんうしろまで移動させる（→P. 49）

手順 5 フロントシートをいちばん前まで移動させる（→P. 47）

手順 6 フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→P. 47）

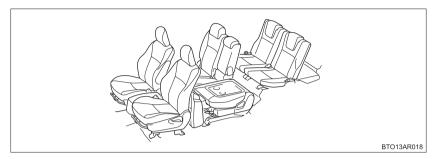
手順 7 シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する

セカンドシートダブルフォールディング

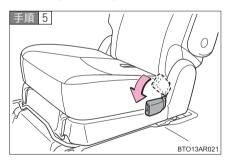
BTO13AR018

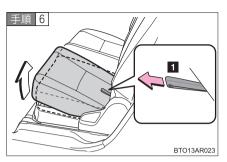
手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

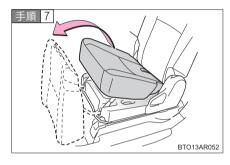
手順 2 フロントシートをいちばん前まで移動させる（→P. 47）

手順 3 セカンドシートのヘッドレストを下げる（→P. 57）

手順 4 セカンドシートのアームレストを使用しているときは、格納（いちばん上に上げる）します（→P. 53）

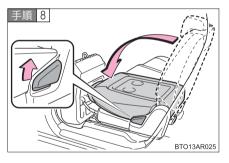
手順 5 7 人乗り車は、セカンドシート中央席シートベルトを格納する（→P. 74）

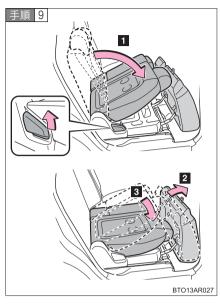
BTO13AR021

6 人乗り車は、セカンドシートベルトのバックルを倒す

手でバックルを前方いっぱいに倒す

シートクッション後端のシートロック解除ベルト（**1**）を前方へ引き、ロックを解除する

ベルトを引いて、ロックを確実にはずします。

シートクッションを前方へ引き起こす

引き起こす途中でシートクッションを回転させると、シートクッションがロックされ、もどらなくなることがあります。

・シートクッションがロックされたときは、シートロック解除ベルトを引いて、ロックを解除します。

背もたれを水平の位置まで倒す

これでセカンドシートがテーブル状態となります。

4WD 車の運転席側セカンドシートは、下記の手順に従って水平になるまで倒します。

1 背もたれをシートクッションにあたるまで倒す

2 シートクッションを前方に押す

3 背もたれを水平になるまで倒す

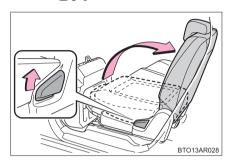
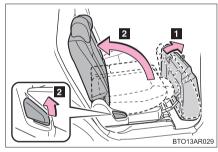
手順 10 シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する

■ もとにもどすときは

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

手順 2 リクライニングレバーを引いてセカンドシートの背もたれを起こす。

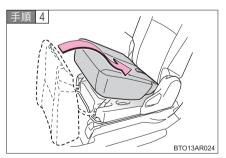
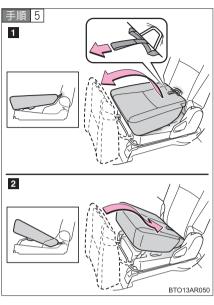
BTO13AR028

BTO13AR029

4WD 車の運転席側セカンドシートは、下記の手順に従って背もたれを起こします。

1 シートクッションを前方に押す

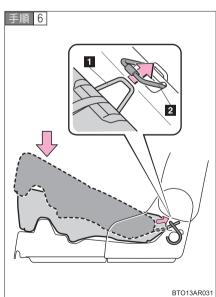
2 リクライニングレバーを引いて背もたれを起こす

手順 3 シートベルトおよびバックルが格納されていることを確認する

BTO13AR024

シートクッションの後端部を背もたれの下にもぐり込ませるようにして後方へ倒す

もしシートクッションの後端部が浮いた状態でロックされた場合は、次の手順に従ってください。

1 シートロック解除ベルトを引いて、一度シートクッションを前方に引き起こす

2 シートクッションの後端部を背もたれの下にもぐり込ませるようにして後方へ倒す

シートクッション後端部が浮いた状態でロックさせると、クッション後端部のフックが背もたれに接触して、背もたれを傷付けるおそれがあります。

シートクッションを固定する

シートクッション前端部を押さえ付けます。

シートクッション下側のフック（1）がストライカー（2）にかかり、シートクッションが固定されます。

シートクッションの土台部分にものを置かないでください。ものが置かれた状態でシートクッションをもとにもどすと、シートクッションが確実に固定されません。

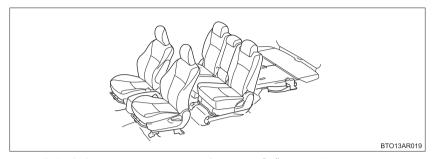
手順 7 シートクッションを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する。

サードシートの前倒し

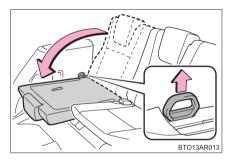
BTO13AR019

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

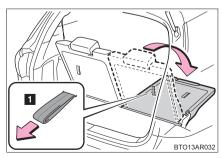
手順 2 セカンドシートの背もたれを前に倒す（→P. 49）

手順 3 サードシートのヘッドレストを下げる（→P. 57）

手順 4 サードシートの背もたれを水平位置まで倒す

■ 車内からの操作

BTO13AR013

リクライニングベルトを引きながら、背もたれが水平になるまで前方いっぱいに倒す

■ バックドア側からの操作

BTO13AR032

ストラップ（1）を引きながら、背もたれが水平になるまで前方いっぱいに倒す

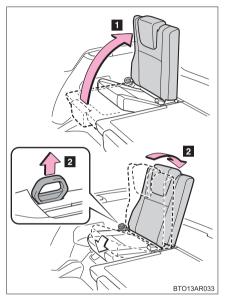
手順 5 シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する

■ もとにもどすときは

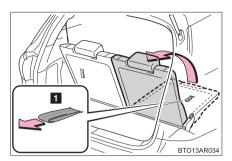
手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

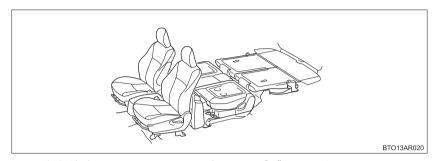
手順 2 セカンドシートの背もたれを前に倒す（→P. 49）

手順 3 サードシートの背もたれを起こす

▶ 車内からの操作

1 手で背もたれをいったん止まる位置まで起こす

2 リクライニングベルトを引いて、背もたれのリクライニング位置を調整する

▶ バックドア側からの操作

ストラップ（1）を引いて背もたれを起こし、リクライニング位置を調整する

ビックカーゴモード

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

手順 2 フロントシートを前方に移動させる（→P. 47）

手順 3 セカンドシートとサードシートのヘッドレストを下げる（→P. 57）

手順 4 サードシートを前倒しする（→P. 55、P. 56）

手順 5 セカンドシートをいちばんうしろに移動させる（→P. 49）

手順 6 セカンドシートをダブルフォールディングの状態にする（→P. 62）

警告

■**シートアレンジについて**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 必ず平坦な場所でシフトレバーをＰに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。
- 走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
- シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。
- シートのあいだにシートベルト、バックルが挟み込まれていないか確認してください。
- シートを移動させるときは、シートの下に手や足を入れないでください。

■**フラットシートについて**

フラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。

■**セカンドシートダブルフォールディングについて**

- テーブル状態のまま走行しないでください。
- テーブル状態になった背もたれの上に絶対に乗らないでください。

■**サードシートの前倒しについて**

サードシートにすわるときは、必ずセカンドシートをもとにもどしてください。

■**ビックカーゴモードについて**

ラゲージスペースに人を乗せて走行しないでください。

■**セカンドシートおよびサードシートの格納について**

- シートベルトが、背もたれやシートクッションに挟まれていないことを確認してください。
- シートクッションの上に荷物などをのせたままシートを格納しないでください。
- 倒したシートの背もたれの上を走りまわらないでください。

注意

■シートアレンジについて

- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。
- シートレールの上にマットなどを敷かないでください。

■フラットシートについて

- 背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。
- フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。

■セカンドシートダブルフォールディングについて

- セカンドシートのシートクッションを持ち上げたときは、シートクッションの土台部分に乗ったり、手や足を入れないでください。
- ダブルフォールディングしたセカンドシートのクッションをもとにもどすときは、手や足を挟まないように注意してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

● 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

● ねじれがないようにする

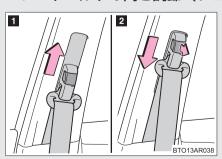
■ 着け方、はずし方（セカンドシート中央席を除く）

1 固定

“カチッ”と音がするまで差し込みます。

2 解除

解除ボタンを押します。

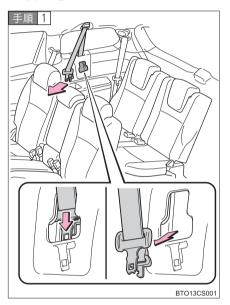
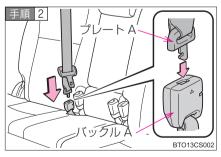
■ シートベルトの高さ調節（フロントシート）

1 上げる

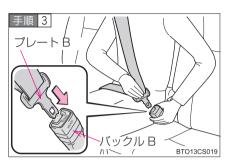
2 下げる

“カチッ”と音がして固定される所まで動かしてください。

セカンドシート中央席シートベルト（7 人乗り車）

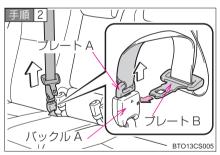
セカンドシート中央席にも、3 点式シートベルト（分離格納式）が装備されています。使用するときは、2ヶ所あるプレートとバックルを下記の手順で各々確実に結合してください。また、使用しないときはプレートを確実にホルダーに格納してください。

■ 着け方

プレート 2 枚を矢印の方向に押して、ホルダーから取り出す

プレート A をバックル A に挿し込み、結合する

“カチッ”と音がするまで挿し込みます。

プレートBをバックルBに挿し込み、シートベルトを固定する

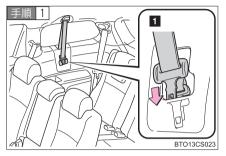
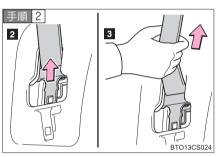
"カチッ"と音がするまで挿し込みます。

■ はずし方

バックルBの解除ボタンを押す

プレートBをバックルAに挿し込む

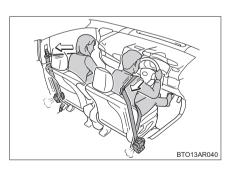
ベルトが急に巻き取られないように、必ずベルトを持ったままの状態でプレートをバックルに挿し込んでください。

■ 格納のしかた

ベルトを持ち、ゆっくりと巻きもどしながら、下記の手順でプレートをホルダーにしっかりと固定します。

1 プレートA、Bを重ねて、プレートの金属部を先にホルダーに入れる

2 重ねたプレートを矢印の方向に押してホルダーに固定する

確実に固定されるよう、図のようにしっかりと挿し込みます。

3 プレートがホルダーに確実に固定されているか、ベルトを上へ引っ張って確認する

シートベルトプリテンショナー（フロントシート）

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせばベルトを引き出すことができます。

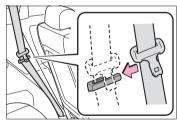
■お子さまのシートベルトの使い方

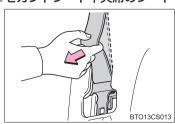
この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 111)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 73)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度作動しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■セカンドシート左右席のシートベルトについて

シートベルトを使用しないときは、シートベルトクリップに挟み、プレートをクリップに挿し込んでください。

■セカンドシート中央席のシートベルトが引き出せないときは

シートベルトを持ち、ベルトを矢印の方向に強く引いてから離すと引き出すことができます。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**シートベルトの着用について**

- 車に乗るときは全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは 1 組につき一人で使用する
  お子さまでも 1 組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはセカンドシート、またはサードシートに座らせてシートベルトを着用させるか、チャイルドシートを使用する
- 背もたれは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

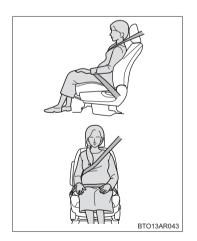
警告

■セカンド中央席シートベルト（分離格納式）について（7 人乗り車）

●分離格納式シートベルトを使用するときは、プレート A とバックル A を結合してください。

●分離格納式シートベルトは、プレートがホルダーに確実に固定されるまで手を添えたまま格納してください。固定されるまで手を添えていただかないと、誤ってベルトが後席の乗員にあたるなどしてけがをするおそれがあります。

●分離格納式シートベルトを格納するときは、プレートを確実にホルダーに挿し込み、固定してください。正しく格納していないと、走行中にプレートが飛び出し、乗員にあたるなどしてけがをするおそれがあります。

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P. 73）
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しい着用をしてください。

⚠ 警告

■お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルからシートベルトがはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■プリテンショナー付シートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■シートベルトの損傷・故障について

●ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

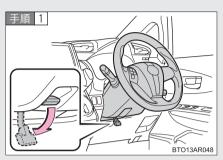
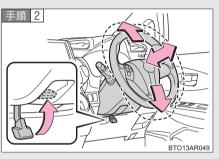
●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付きシートベルトの取り付け、取りはずし、分解、廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

ハンドルを持ち、レバーを下げる

ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

警告

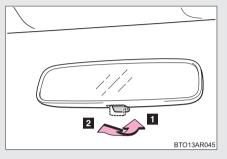
■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

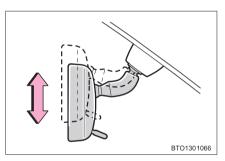
■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

インナーミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

1 通常使用状態

2 防眩状態

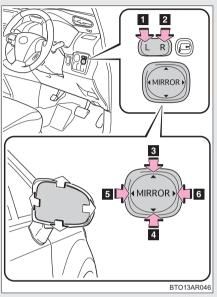
上下調整のしかた

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

警告

■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度を調整できます。

ミラーを選ぶ

1 左

2 右

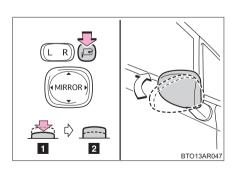
スイッチを操作してミラーの鏡面を調整する

3 上

4 下

5 左

6 右

ドアミラーを格納するときは

ボタンを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

1 格納状態

2 復帰状態

知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき

■ミラーが曇ったときは（ミラーヒーター装着車）

リヤウィンドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→P. 206)

■レインクリアリングミラー（レインクリアリングミラー装着車）

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。
鏡面に汚れなどが付着すると親水効果は一時的に低下しますが、太陽光をあてることにより付着した汚れを化学的に分解し、親水効果を徐々に回復させる機能も持っています。

●次のような場合、親水効果が低下しますが、晴天時に 1・2 日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。親水効果を早く回復させたいときは回復作業（→P. 242）を行ってください。

・鏡面に、汚れや異物が付着したり、素手でふれたり汚れた布などでふいたとき
・洗車により鏡面に洗剤やワックスが付着したとき
・地下・屋内駐車場などの日の当たらない場所に長時間駐車したとき

●次のような場合、親水効果が回復できなくなります。十分注意してください。

・鏡面にシリコーン入りのカーメンテナンス商品が付着したとき
・鏡面に傷を付けたとき

警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

●ミラーの調整をしない

●ミラーを格納したまま走らない
必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する

■ミラーが動いているときは

手をふれないでください。
手を挟んで、けがやミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているときは（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

注意

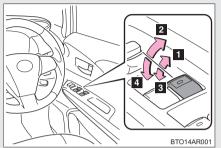
■レインクリアリングミラーの取り扱いについて（レインクリアリングミラー装着車）

●鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させる（ミラーヒーター装着車のみ）などして解氷してください。
親水膜の効果を持続させるため、鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。

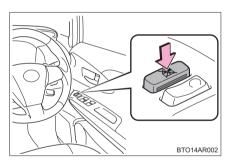
●シリコーン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないよう十分注意してください。

●砂のついた布、油膜取り剤、研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。

パワーウインドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

1 閉める
2 自動全閉※
3 開ける
4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押して運転席以外のドアガラスを作動不可にする

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションONモードのとき

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが“ ON ”のとき

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■パワーウインドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

車を停止し、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードの状態でパワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

車を停止し、エンジン スイッチを “ ON ” の状態でパワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを6秒間引き続ける

手順 2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを2秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ OFF(またはエンジン スイッチ “ LOCK ”)後の作動

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモード、または OFF にしたあとでも、約 43 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチを“ACC ”または“ LOCK ”にしたあとでも、約 43 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

警告

■ドアガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。

●お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

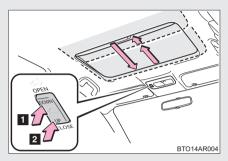
■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ムーンルーフ*

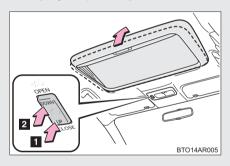
頭上のスイッチでムーンルーフを開閉およびチルトアップ / ダウンすることができます。

■ 開閉

1 開く

全開手前の位置で停止します。
全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

2 閉める

途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

■ チルトアップ / ダウン

1 チルトアップ

2 チルトダウン

途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車
“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが“ON”のとき

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ OFF（またはエンジン スイッチ “ LOCK ”）後の作動

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモード、または OFF にしたあとでも、約 43 秒間ムーンルーフを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
エンジン スイッチを“ACC ” または “ LOCK ” にしたあとでも、約 43 秒間ムーンルーフを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ムーンルーフを閉めることができないとき

故障などで挟み込み防止機能が作動してしまい、ムーンルーフを自動で閉めることができないときは、スイッチを押し続けることで閉めることができます。

■風切音の低減

自動で開けたときに停止する位置（全開手前位置）で走行すると、風切音を低減できます。

■サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンルーフが開くときは連動して開きます。

■閉め忘れ警告ブザー

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車
ムーンルーフが完全に閉まっておらず、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチが OFF のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車
ムーンルーフが完全に閉まっておらず、エンジンスイッチが“ LOCK ”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの CLOSE 側を押し続ける。※[1]

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※[2] その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの UP 側を押し続け※[1]、 ムーンルーフをチルトアップ位置にする

手順 3 スイッチから 1 度手を離し、再度 UP 側を押し続ける。※[1]

ムーンルーフがチルトアップの状態で 10 秒間停止し※[2] 微調整後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※[1]途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※[2]10 秒間停止した後にスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの CLOSE 側または、UP 側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

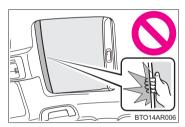
■**ムーンルーフを開けているときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中はルーフから手や顔を出さない

●開口部に腰かけない

■**ムーンルーフを開閉するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手、腕、頭、首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
ムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

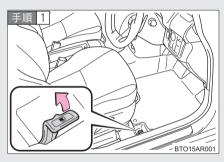
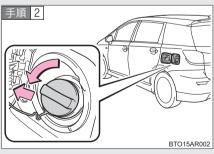
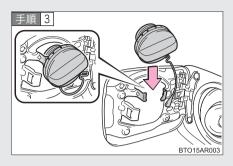
■ 給油する前に

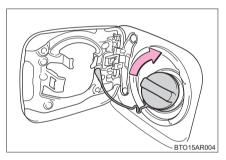
▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

- 燃料の種類を確認してください（→P. 96）
- ドアと窓を閉めて、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしてください。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

- 燃料の種類を確認してください（→P. 96）
- ドアと窓を閉めて、エンジン スイッチを “ LOCK ” にしてください。

■ 給油口の開け方

給油口を開ける

キャップをゆっくりまわして開ける

キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉めます。

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

警告

■**給油について**

給油するときは、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●車体などの金属部分にふれて体の静電気を除去する
除去しないと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
キャップを開けるとき、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いとき給油口から燃料が噴き返すおそれがあります。

●給油口に、静電気を除去していない人を近付けない

●気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。

●車内にもどったり、帯電している人やものにふれない
再び帯電する可能性があります。

■**給油時の注意**

●ふきこぼれを防ぐため以下の点に注意してください。

・給油口にノズルを確実に挿入する
・継ぎ足し給油をしない

●そのほか、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの店員を呼んで指示に従ってください。

警告

■キャップ交換時の警告

トヨタ純正品以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

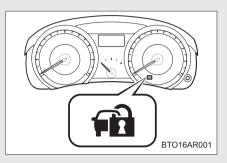
注意

■給油するときは

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム＊

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- ●キーが金属性のものに接したり、覆われている
- ●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近している
- ●引っかかりなどにより、電気式ステアリングロックが施錠されたまま

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

正しい運転姿勢

次の条件にあった正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 47）

2 シートをペダルが十分に踏み込めるような位置にする（→ P. 47）

3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→ P. 47）

4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 81）

5 ヘッドレストの中央が耳の後方になる（→ P. 57）

6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 73）

警告

■走行中は

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあり危険です。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。

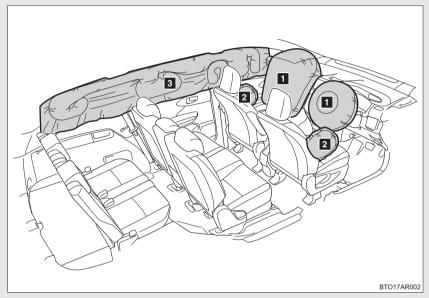
●フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■シートを調整するときは

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

▶ SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ

2 SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

3 SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音とともに白いガスが発生します。
- フロント席、フロントピラーやルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

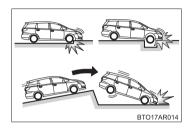
- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
  ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
  - ・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
  - ・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝撃条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

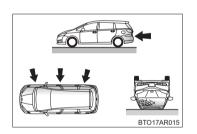
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグが作動する場合があります。

BTO17AR014

- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

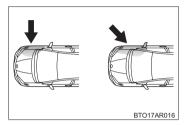
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

BTO17AR015

- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

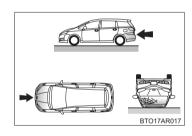
■SRS エアバッグが作動しないとき
（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

BTO17AR016

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

BTO17AR017

●前方からの衝突

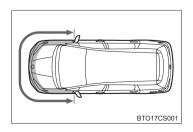
●後方からの衝突

●横転

■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

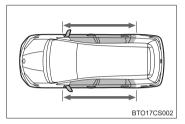
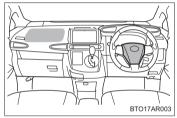
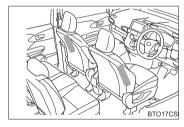
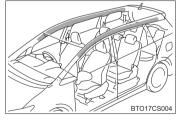
次のような場合には、修理・点検等が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

BTO17CS001

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

●SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

●ハンドルのパッド部分やダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはセカンドシートまたはサードシートに乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめいたします。(→P. 111)

BTO17AR005

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

BTO17AR006

●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

警告

■SRS エアバッグについて

BTO17AR007

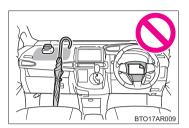
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

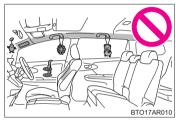
BTO17AR008

●助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

⚠警告

■SRS エアバッグについて

BTO17AR009

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部などには何も取り付けたり、置いたりしない

BTO17AR010

●ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く（→P. 319））

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車両客室側面部の修理、改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　：10kgまで
グループ0+　：13kgまで
グループⅠ　：9～18kg
グループⅡ　：15～25kg
グループⅢ　：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

▶ベビーシート

BTO13CS008

ECE R44 基準のグループ 0、0^+
に相当

▶ チャイルドシート

BTO17CS006

ECE R44 基準のグループ 0^+、Ⅰ
に相当

▶ ジュニアシート

BTO17CS007

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲ
に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）			
	フロントシート	セカンドシート		
		6 人乗り車	7 人乗り車	
	助手席	左右席	左右席	中央席
0 (10kg まで)	×	U *[3]	U *[3]	×
0+ (13kg まで)	×	U *[3]	U *[3]	×
Ⅰ (9 ～ 18kg)	前向き UF *[1, 2] うしろ向き ×	U *[2, 3]	U *[2, 3]	×
Ⅱ (15 ～ 25kg)	UF *[1, 2]	U *[2, 3]	U *[2, 3]	×
Ⅲ (22 ～ 36kg)	UF *[1, 2]	U *[2, 3]	U *[2, 3]	×

質量グループ	着席位置 （または他の場所）
	サードシート
0 (10kg まで)	L1 *[2, 4]
0+ (13kg まで)	L1 *[2, 4]
Ⅰ (9 ～ 18kg)	L2 *[2, 4]
Ⅱ (15 ～ 25kg)	L3 *[2, 4]
Ⅲ (22 ～ 36kg)	L3 *[2, 4]

● 表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

L1：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby」、「トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether」、「トヨタ純正 NEO G-Child baby」(2012 年 7 月頃発売予定）に適しています。

L2：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether」、「トヨタ純正 NEO G-Child baby」(2012 年 7 月頃発売予定）に適しています。

L3：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 ジュニアシート」に適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

＊1：フロントシートの背もたれを直立状態にする。
フロントシートをいちばんうしろに下げる。

＊2：子供専用シートを取り付ける際は、ヘッドレストをはずす。

＊3：セカンドシートの背もたれを直立状態にする。
セカンドシートをいちばんうしろに下げる。

＊4：サードシートの背もたれを子供専用シートが搭載できるところまで倒す。倒した状態で子供専用シートを搭載し、安定するところまで背もたれを起こす。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			セカンドシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL1 *
0^+（13kg まで）	E	ISO/R1	IL1 *
	D	ISO/R2	IL2 *
	C	ISO/R3	IL2 *
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF * , IL2 *
	B1	ISO/F2X	IUF * , IL2 *
	A	ISO/F3	IUF * , IL2 *
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 表に記入する文字の説明

(1)：サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL1：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby」、「トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg」(2012 年 7 月頃発売予定）に適しています。

IL2：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg」(2012 年 7 月頃発売予定）に適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

＊：子供専用シートを取り付ける際は、ヘッドレストをはずす。
セカンドシートをいちばんうしろに下げる。
セカンドシートの背もたれを子供専用シートが搭載できるところまで倒す。倒した状態で子供専用シートを搭載し、安定するところまで背もたれを起こす。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

<table>
<tr><th>質量グループ</th><th>サイズ等級</th><th>固定具</th><th>ISOFIX 子供専用シート</th><th>カテゴリー</th></tr>
<tr><td rowspan="2">0 （10kg まで）</td><td>E</td><td>ISO/R1</td><td>トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby</td><td>準汎用</td></tr>
<tr><td>E</td><td>ISO/R1</td><td>トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg (2012 年 7 月頃発売予定）</td><td>準汎用</td></tr>
<tr><td rowspan="4">0+ （13kg まで）</td><td>E</td><td>ISO/R1</td><td>トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby</td><td>準汎用</td></tr>
<tr><td>E</td><td>ISO/R1</td><td rowspan="3">トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg (2012 年 7 月頃発売予定）</td><td rowspan="3">準汎用</td></tr>
<tr><td>D</td><td>ISO/R2</td></tr>
<tr><td>C</td><td>ISO/R3</td></tr>
</table>

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
Ⅰ（9 ～ 18kg）	B	ISO/F2	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg（2012 年 7 月頃発売予定）	準汎用
	B1	ISO/F2X		
	A	ISO/F3		

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択・使用について

- ●お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- ●お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- ●体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、セカンドシート、またはサードシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→P. 113)を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→P. 115)を確認して、適切なシートを選択してください。

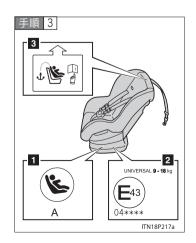
手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1):体重が 12kg の場合、質量グループは「0+」になります。
(例 2):体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

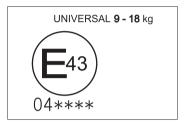
手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1):質量グループが「0+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。
(例2):質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」(→P. 116)で指定されている製品を使用してください。

子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用(ユニバーサル)子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー（→P. 121）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型うしろ向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型うしろ向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	うしろ向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

知識

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを以下のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- ●背もたれを直立状態にする
- ●シートをいちばんうしろに下げる
- ●シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。
詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

警告

■子供専用シートを使用しない場合

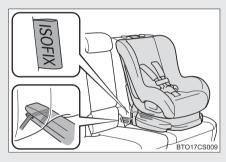
- ●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- ●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に、容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

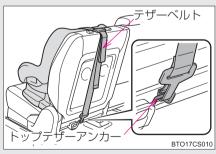
シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、必ず商品付属の取扱書に従ってください。

BTO17CS016

シートベルトによる取り付け
(→ P. 122)

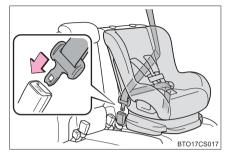
BTO17CS009

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー (→ P. 123)

窓側のセカンドシートの座席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)

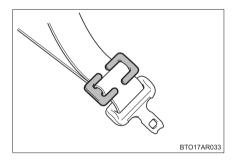
BTO17CS010

トップテザーアンカー
(→ P. 123)

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーは窓側のセカンドシートの座席に装備されています。

シートベルトで固定する

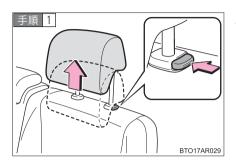
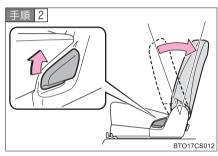
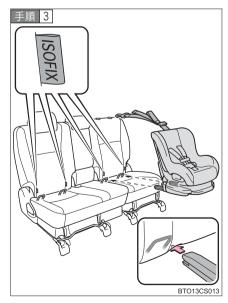
BTO17CS017

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに"カチッ"と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

BTO17AR033

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

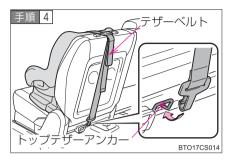
ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ 品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

ヘッドレストを取りはずす

シートをいちばんうしろまで移動させたあと、チャイルドシートを取り付けやすいように、リクライニングレバーを引きながら、背もたれを後方に倒す

固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける

固定専用バーは、シートクッションと背もたれのあいだにあります。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれの商品付属の取扱書に従ってください。

チャイルドシートを取り付けた後、背もたれおよびシートクッションとチャイルドシートのあいだにすき間ができないよう、背もたれの角度を調整します。

トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されているか確認します。

取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、確実に取り付けられていることを確認する

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーについて

この ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーには、道路運送車両の保安基準に適合する子供専用シート（ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカー対応のトヨタ純正チャイルドシート）を取り付けることをおすすめします。チャイルドシートの選択にあたってはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**チャイルドシートについて**

●事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、室内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。

●たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアやシート、センターピラー・リヤピラー、ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルからシートベルトがはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

BTO17AR011

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

BTO17AR012

●助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。
併せてご覧ください。

警告

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

■**チャイルドシートを使用しないときは**

●車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。(→P. 122、123)チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。

●チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

運転するときに 2

2-1. 運転のしかた

運転にあたって 130
エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）................ 140
エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）............ 145
オートマチックトランスミッション.......... 148
方向指示レバー 153
パーキングブレーキ............. 154
ホーン（警音器）.................. 155

2-2. メーターの見方

計器類.................................. 156
表示灯／警告灯 160
ドライブモニター 164

2-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ..................... 168
フロントフォグランプスイッチ.............................. 172
ワイパー & ウォッシャー（フロント)......................... 173
ワイパー & ウォッシャー（リヤ)................................ 177

2-4. その他の走行装置の使い方

4WD オートモード............. 179
クルーズコントロール........... 180
運転を補助する装置.............. 184

2-5. さまざまな状況での運転

荷物を積むときの注意.......... 190
寒冷時の運転........................ 192

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

■ エンジンをかける（→P. 141、145）

（→P. 141、145）

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 148）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 154）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーをPまたはNにします。(→P. 148)

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 シフトレバーを P にする（→P. 148）

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止めを使用してください。

手順 3 パーキングブレーキをかける（→P. 154）

手順 4 エンジンを停止する

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にします。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチを “ LOCK ” にします。

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

以下の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

●スポーツモード選択時にブレーキペダルを踏んだとき

■運転標識の取り付け

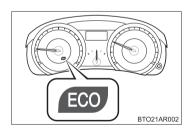
磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などを、樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■環境に配慮した運転をするには

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。
次の場合、エコドライブインジケーターランプは作動しません。

- ●シフトポジションが D 以外のとき（パドルシフト装着車は、パドルシフト使用時）
- ●走行モードが通常走行モードまたはエコドライブモード以外のとき
- ●車速が約 100km/h 以上のとき

▶ アナログメーター

▶ オプティトロンメーター

警告

■発進するときは

ブレーキペダルをしっかり踏み込んだまま、シフトレバーを操作してください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

警告

■**運転するときは**

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因になるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気づいたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

警告

- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
  なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 342を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
  フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。（→P. 148）
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。
- 走行中はハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。
  運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。
- 重大な傷害や死亡のおそれがあるので、すべての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
  やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
  電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
  急ブレーキ時や、旋回時などに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■**すべりやすい路面を運転するときは**

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**継続的にブレーキ付近から警告音(キーキー音)が発生したときは**

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

警告

■**停車するときは**

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがＰまたはＮ以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●長時間エンジンをかけたままにしないでください。どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■**駐車するときは**

●炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・スプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

警告

● シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

● 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてエンジンを停止し施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。

● エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

● 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素 (CO) が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

● 排気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

● 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

警告

■ブレーキをかけるときは

- 万一エンジンの停止などによりブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■運転中は

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

注意

■**部品の損傷を防ぐために**

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■**走行中にタイヤがパンクしたら**

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は、P. 301、または P. 313 をご覧ください。

■**冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

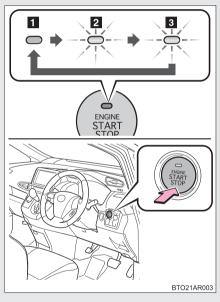
●ブレーキの効き具合

●エンジン、トランスミッション、トランスファー（4WD 車）、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●プロペラシャフト（4WD 車）、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動または“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードを切りかえることができます。

■“エンジン スタート ストップ”スイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずに“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとに“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードが切りかわります）

1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

シフトレバーが P 以外のときはOFF になりません。

2 アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む

スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。
緑色に点灯していないとエンジンは始動しません。

手順 4 " エンジン スタート ストップ " を押す

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
" エンジン スタート ストップ " スイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

■ エンジン停止のしかた

手順 1 車両を停止させる

手順 2 シフトレバーを P の位置にする（→P. 148）

手順 3 パーキングブレーキをかける（→P. 154）

手順 4 " エンジン スタート ストップ " スイッチを押す

手順 5 ブレーキペダルから足を離した状態にして" エンジン スタート ストップ " スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

シフトレバーが P の位置以外でエンジンを停止したときは

シフトレバーが P の位置以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、" エンジン スタート ストップ "スイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーを P の位置にする（→P. 148）

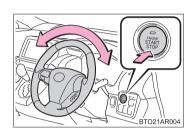
手順 3 " エンジン スタート ストップ " スイッチのインジケーターが橙色に点灯していることを確認し、" エンジン スタート ストップ " スイッチを 1 回押す

手順 4 " エンジン スタート ストップ " スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

知識

■ステアリングロックについて

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックを解除するには

ステアリングを左右に動かしながら、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押してください。

ステアリングロックが解除されていないときは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチのインジケーターが緑色に点滅します。

■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジン始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動を制限することがあります。その場合は操作を控えてください。
10 秒程度でもとの状態にもどります。

■エンジンが始動しないときは

イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P. 99)
トヨタ販売店へご連絡ください。

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき 20 分以上アクセサリーモードにしたままにしておくと “ エンジン スタート ストップ ” スイッチが自動的に OFF になります。

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの操作について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを操作するときは、短く確実に押してください。確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジン始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

■クランキングホールド機能について

エンジン始動操作をしてすぐに手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大約 30 秒間保持します。
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押したままでも、スターターの回転は最大で約 30 秒間です。約 30 秒経過してもエンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

■電子キーが正常に働かないときは

→P. 332

■電子キーの電池の消耗について

→P. 28

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 277

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 34

■ご留意いただきたいこと

→P. 29

⚠警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンストなどで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック状態にしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、“エンジン スタート ストップ”スイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→P. 342)

ただし、緊急時以外は走行中に“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

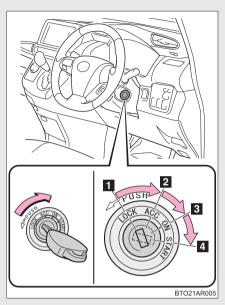
エンジンがかかっていないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■“エンジン スタート ストップ”スイッチの操作について

“エンジン スタート ストップ”スイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

■ エンジン スイッチの位置

1 “ LOCK ” (OFF)

・ステアリングロックがかかります。
・シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しすることができます。

2 “ ACC ”

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

3 “ ON ”

すべての電装品が使用できます。

4 “ START ”

エンジンが始動できます。

■ エンジンのかけ方

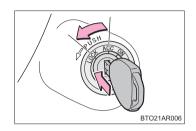
手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

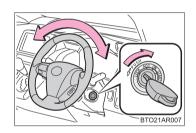
手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む

手順 4 エンジン スイッチを “ START ” の位置にまわす

知識

■キーを“ ACC ”から“ LOCK ”にまわすには

手順 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 2 キーを押し込みながら“LOCK”までまわす

■ステアリングロックを解除するには

ステアリングを左右に動かしながら、キーをまわしてください。

■エンジンが始動しないときは

→P. 328

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジン スイッチが“ ACC ”または“ LOCK ”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ ACC ”または“ ON ”にしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

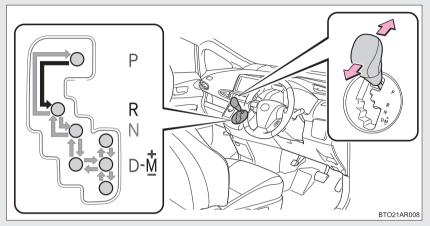
● 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。

● エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

● もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

← エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

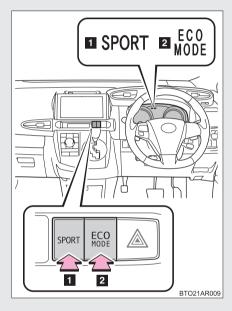
← エンジン スイッチが “ ON ” のとき、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
M	7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行 (→ P. 150)

※燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

■ 走行モードの選択

走行使用条件にあわせて次のモードを選択できます。
スポーツモード装着車の場合、通常はスポーツモードが OFF の状態（メーター内の SPORT モード表示灯が消灯している状態）で使用します。燃費性能など、経済性を重視した走行ができます。

1 スポーツモード*

▶ CVT スポーツモード装着車

カーブの多い山道や高速で走行するときに適しています。スイッチを押すと、メーター内のSPORT モード表示灯が点灯します。

▶ ダイナミックスポーツモード装着車

CVT（トランスミッション）、TRC（トラクションコントロール）、EPS（電動パワーステアリング）が連動し作動します。カーブの多い山道などでスポーティーな走行をするときに適しています。スイッチを押すと、メーター内のSPORTモード表示灯が点灯します。

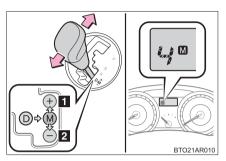
2 エコドライブモード

エアコンの作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。スイッチを押すと、メーター内のECO MODE表示灯が点灯します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでの変速段切りかえ

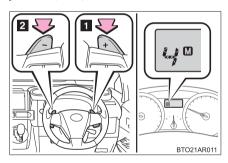
シフトレバーを M の位置にして、シフトレバーまたはシフトパドルを操作します。

▶ シフトレバー

1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 段ずつ変速します。

1 ～ 7 のあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。

▶ シフトパドル*

1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトパドルを操作するごとに 1 段ずつ変速します。
1 ～ 7 のあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックに関する自動変速について

・ エンジン回転数が上がりすぎないように自動的に1段シフトアップされます。
・ エンジン回転数が下がりすぎないように自動的に1段シフトダウンされます。

■シフトダウン制限警告ブザー（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトできない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 330

■クルーズコントロールを使って走行しているとき*

シフトレバーを D から M にシフトしてもエンジンブレーキは効きません。

エンジンブレーキを目的に 7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行中で M6 または M5、M4 へシフトダウンしてもクルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。

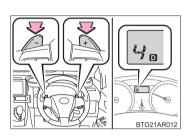
■シフトレバーをMにしても、シフトポジション・シフトレンジ表示灯のMが点灯しないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■M ポジションで走行中に停車したときは

・停車すると自動的に M1 にシフトダウンされます。
・停止後走行するときは M1 からの発進となります。
・停止後は M1 に固定されます。

■一時的なスポーツシーケンシャルシフトマチックモードについて

シフトレバーを D の位置で走行中、シフトパドルを操作することにより任意の変速段を選択することができます。この場合、シフトポジション・シフトレンジ表示灯に D が点灯し、変速段が表示されます。
一時的なスポーツシーケンシャルシフトマチックモードは次の状態になると解除されます。

●同一変速段で、アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

●シフトパドルのシフトアップ側を一定時間以上押し続けたとき

●車両停止状態のとき

■G AI-SHIFT について

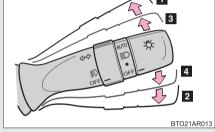
●G AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切な変速比・ギヤ段切りかえを行います。

●G AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。シフトレバーを M にすると、機能が解除されます。

警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

方向指示レバー

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

知識

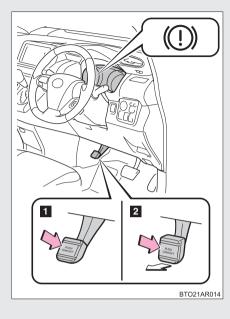
■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションONモードのとき

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが “ ON ” のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

1 パーキングブレーキがかかる

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキレバーをいっぱいまで踏み込みます。

2 パーキングブレーキが解除される

パーキングブレーキがかかっている状態で、再度パーキングブレーキを踏み込みます。

知識

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

→P. 294

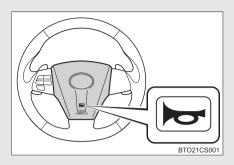
■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P. 192

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

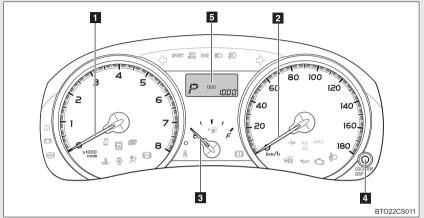
ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 81）

計器類

▶ アナログメーター*

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにするとメーターが点灯*します。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ON ” にするとメーターが点灯*します。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 表示切りかえボタン

オドメーター / トリップメーター / メーター照度調整 / ドライブモニターの表示を切りかえることができます。→P. 159

＊ : グレード等によりメーターの意匠やメーターの点灯箇所は異なります。

5 シフトレンジ表示、エコドライブインジケーターゾーン表示、オドメーター、トリップメーター、メーター照度調整、ドライブモニター

● シフトレンジ表示

選択されているシフトレンジを表示します。

● エコドライブインジケーターゾーン表示

環境に配慮したアクセル操作（エコ運転）の範囲と、現状のアクセル開度を表示します。（→P. 166）

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

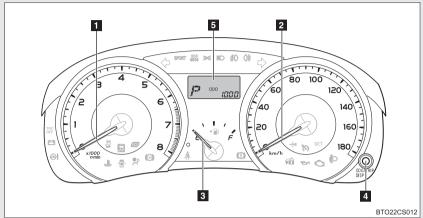
● メーター照度調整

メーターの照度を調整することができます。

● ドライブモニター

走行に関する様々な情報を表示します。（→P. 164）

▶ オプティトロンメーター

BTO22CS012

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにするとメーターが点灯します。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 表示切りかえボタン

オドメーター / トリップメーター / メーター照度調整 / ドライブモニターの表示を切りかえることができます。→P. 159

5 シフトレンジ表示、エコドライブインジケーターゾーン表示、オドメーター、トリップメーター、メーター照度調整、ドライブモニター

● シフトレンジ表示

選択されているシフトレンジを表示します。

● エコドライブインジケーターゾーン表示

環境に配慮したアクセル操作（エコ運転）の範囲と、現状のアクセル開度を表示します。（→P. 166）

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

● メーター照度調整

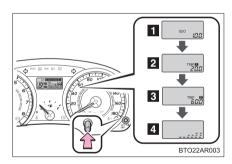
メーターの照度を調整することができます。

● ドライブモニター

走行に関する様々な情報を表示します。(→P. 164)

表示切りかえボタン

ボタンを押すごとに次のように切りかわります。

BTO22AR003

1 オドメーター

2 トリップメーター A ※ 1

3 トリップメーター B ※ 1

4 メーター照度調整表示※ 2

※ 1 長押しで 0 にもどります。

※ 2 長押しで照度を調整できます。

5 ドライブモニター表示 (→P. 164)

⚠ 注意

■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

● タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

● 水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。(→P. 338)

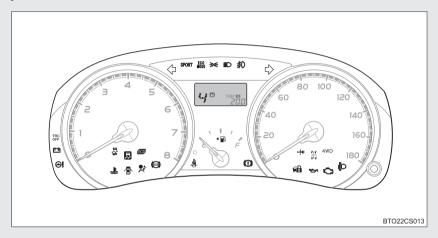
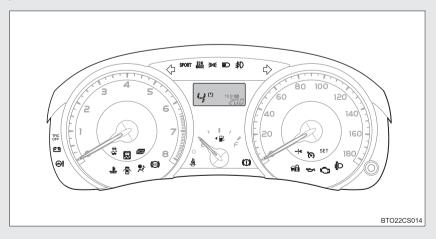
表示灯／警告灯

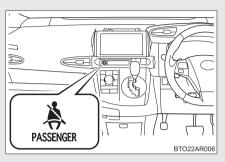
メーター・センターパネル内の表示灯／警告灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての表示灯／警告灯を示しています。

▶ アナログメーター*

BTO22CS013

▶ オプティトロンメーター

BTO22CS014

*：グレード等によりメーターの意匠は異なります。

▶ センターパネル

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P. 153）

尾灯表示灯（→P. 168）＊

ハイビーム表示灯（→P. 168）

フロントフォグランプ表示灯＊（→P. 172）

※ 1
エコドライブインジケーターランプ（→P. 132）

※ 1
スリップ表示灯（→P. 185）

（点滅）

シフトポジション・シフトレンジ表示灯＊（→P. 150）

（点滅）
セキュリティ表示灯＊（→P. 99）

SPORT
SPORT モード表示灯＊（→P. 149）

ECO MODE
ECO MODE 表示灯（→P. 149）

※ 1
AUTO
4WD オートモード表示灯＊（→P. 179）

クルーズコントロール表示灯＊（→P. 180）

クルーズコントロールセット表示灯＊（→P. 180）

※ 1
VSC OFF 表示灯（→P. 186）

※ 1
TRC OFF 表示灯（→P. 186）

※ 2
水温表示灯

※ 1 作動確認のために“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチを“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 2 エンジン冷却水温が低いときは、青く点灯します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 294)

※作動確認のために“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車)、またはエンジン スイッチを“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

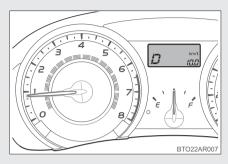
警告

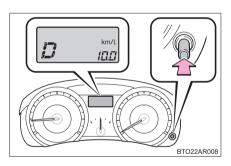
■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車)、またはエンジン スイッチを“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドライブモニター

ドライブモニターは、走行に関するさまざまな情報を表示します。

- 瞬間燃費（→P. 164）
- 平均燃費、エコドライブインジケーターゾーン表示（→P. 164）
- 平均車速（→P. 165）
- エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ表示（→P. 165）

表示切りかえ

項目を切りかえるには、表示切りかえボタンを押します。

- 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

- 平均燃費、エコドライブインジケーターゾーン表示

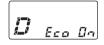
エコドライブインジケーターゾーン表示と平均燃費を表示します。

・ リセットするには、平均燃費表示中に表示切りかえボタンを 1 秒以上押します。
・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

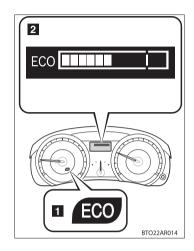
● 平均車速

通算の平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速表示中に表示切りかえボタンを 1 秒以上押します。

● エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ画面

エコドライブインジケーターランプの点灯／消灯をキャンセルするには、エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ画面表示中に、表示切りかえボタンを 1 秒以上押します。

知識

■エコドライブインジケーターゾーン表示について

環境に配慮したアクセル操作（エコ運転）の範囲と、現状のアクセル開度を表示します。エコ運転中は、エコドライブインジケーターランプ（1）が点灯します。
アクセルの踏み過ぎなど、エコ運転の範囲をこえた場合には、エコドライブインジケーターゾーン表示（2）の右側が点滅し、エコドライブインジケーターランプが消灯します。なお、次の3つの条件を満たすと作動します。

●D で走行中（パドルシフト装着車は、パドルシフト未使用時）

●走行モードが通常走行モードまたはエコドライブモード

●車速が約 100km/h 以下のとき

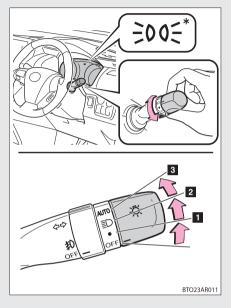
■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

●平均燃費

●平均車速

ランプスイッチ

自動*または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

1 車幅灯・尾灯・番号灯・メーター照明を点灯

2 上記ランプとヘッドランプを点灯

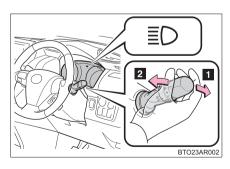
3 ヘッドランプ、車幅灯などを自動点灯・消灯*

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

"エンジン スタート ストップ"スイッチがイグニッションONモードのとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが"ON"のとき

ハイビームにする

1 ランプ点灯時、レバーを前方に押しハイビームに切りかえ

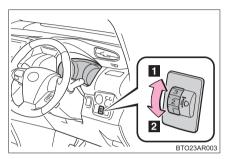
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いている間、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどるまたは消灯します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

1 上向きに調整

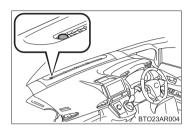
2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と 助手席乗員	なし	0.5
運転者と 助手席乗員 サードシート 乗員 2 名	なし	1.5
全乗員	なし	2.5
全乗員	ラゲージルーム 満載時	3
運転者	ラゲージルーム 満載時	3.5

知識

■ライトセンサー（コンライト装着車）

BTO23AR004

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光が遮られると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ランプ消し忘れ防止機能（コンライト装着車）

▶スマートエントリー&スマートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードで、ランプスイッチが OFF 以外の場合に作動します。

●ランプスイッチを OFF にしないまま、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けると、点灯していた車幅灯などが自動で消灯します。

●再びランプを点灯する場合は、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≣D の位置にします。

▶スマートエントリー&スマートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ON ” で、ランプスイッチが OFF 以外の場合に作動します。

●ランプスイッチを OFF にしないまま、エンジン スイッチを “ ACC” または “ LOCK” にして運転席ドアを開けると、点灯していた車幅灯などが自動で消灯します。

●再びランプを点灯する場合は、エンジン スイッチを “ ON ” にするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≣D の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

▶スマートエントリー&スマートシステム装着車

コンライト装着車は、ランプ消し忘れ防止機能が働かない場合に作動します。

●"エンジン スタート ストップ"スイッチが OFF のときに作動します。

●ランプスイッチが ● または ≣D の位置にあると、運転席ドアを開けたとき警告音（ピーという連続音）が鳴ります。

▶スマートエントリー&スマートシステム非装着車

コンライト装着車は、ランプ消し忘れ防止機能が働かない場合に作動します。

●エンジン スイッチが"LOCK"のときに作動します。

●ランプスイッチが ● または ≣D の位置にあると、運転席ドアを開けたとき警告音（ピーという連続音）が鳴ります。

■オートレベリングシステム（ディスチャージヘッドランプ装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■販売店で設定可能な機能

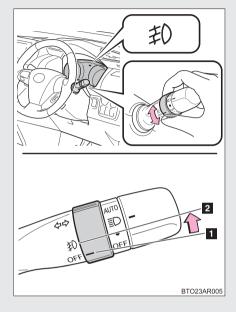
コンライト装着車は、ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
(ユーザーカスタマイズ機能一覧 →P. 354)

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

フロントフォグランプスイッチ＊

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。

1 消灯

2 フロントフォグランプ点灯

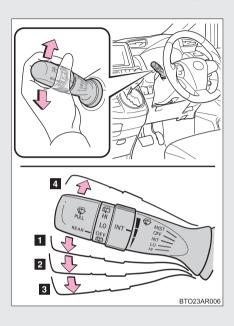
知識

■点灯条件

ヘッドランプ、または車幅灯が点灯しているときに使用できます。

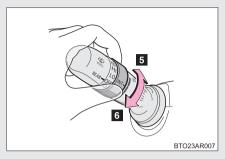
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）

INTを選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

1 間欠作動（INT）

2 低速作動（LO）

3 高速作動（HI）

4 一時作動（MIST）

5 間欠ワイパーの作動頻度（減）
6 間欠ワイパーの作動頻度（増）

7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションONモードのとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが “ ON ” のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ **ウォッシャー使用時の警告**

寒冷時はフロントウィンドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウィンドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

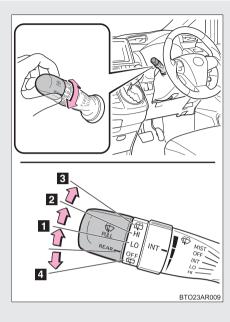
■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

BTO23AR009

1 間欠作動（LO）

2 通常作動（HI）

3 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

4 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションONモードのとき

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが “ ON ” のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

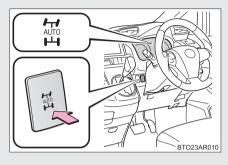
■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

4WD オートモード*

走行の安定性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて F F（前輪駆動）走行と４ WD（４輪駆動）走行を自動的に切りかえます。

4WD オートモードを使用する。

4WD オートモード表示灯が数回点滅後点灯し、4WD オートモードになります。

再度押すと表示灯が消灯し、FF モードになります。

知識

■4WD オートモード表示灯について

●4WD オートモードで走行中、前後輪の回転速度の差が大きい状態が長時間続いた場合などには、4WD オートモード表示灯が点滅します。
表示灯の点滅中は駆動系部品の保護のため、後輪への駆動力配分を休止し、FF モードとなります。
この場合は、エンジンをかけたまま次の対応を行ってください。

・表示灯が点滅しなくなるまで車速を落とす
・表示灯が点滅しなくなるまで停車する（エンジンは停止しない）

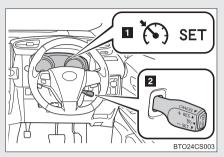
●4WD システムに異常が発生したときには、4WD オートモード表示灯が消灯することがあります。この場合には、4WD オートモードスイッチの位置にかかわらず FF モードとなります。

■4WD オートモードを使用しないときは

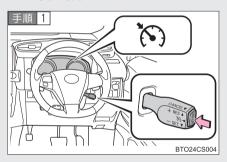
スイッチを押し、FF モードにしてください。FF モードにすることにより燃費性能を高めます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

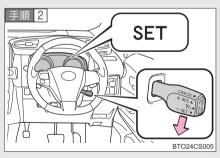
クルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

1 クルーズコントロール表示灯／クルーズコントロールセット表示灯

2 クルーズコントロールスイッチ

■ 速度を設定する

ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

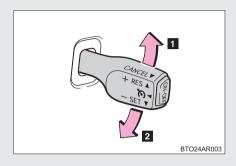
OFF にするには、再度スイッチを押します。

希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

メーター内のクルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ **設定速度をかえる**

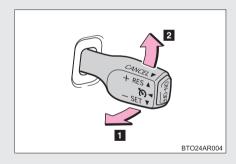
設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

1 速度を上げる

2 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

設定速度は、次のとおりに増減されます：
微調整：レバー操作するごとに約1.6 km/h
調整：レバーを保持する間

■ **定速走行を解除する・復帰させる**

1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40 km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D または M の 4、5、6、7 のとき設定できます。
(3ZR-FAE エンジン搭載車)

●車速は約 40km/h から約 100km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

●通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

●クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げることにより設定車速を変更することができます。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した

●実際の速度が約 40 km/h 以下になった

●車が横すべりして S-VSC が働いたとき

■定速走行中に表示灯が点滅したときは

ON-OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使用しないときはON-OFFスイッチでシステムをOFFにしてください

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
  急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 車両けん引時

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロック防止に貢献し、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

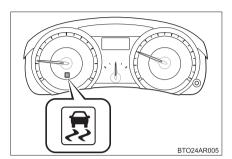
ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

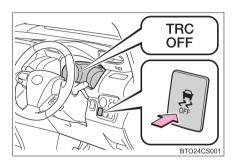
すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力の確保に貢献します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング)

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

TRC・S-VSC が作動しているとき

TRC･S-VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに OFF を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRCを停止するにはスイッチを押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。

知識

■TRC と S-VSC を停止するには

TRC と S-VSC を停止するには停車時に OFF を押し 3 秒以上保持してください。TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示が点灯します。

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。

知識

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・S-VSC の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - ・車体やハンドルに振動を感じる
  - ・車両停止後もモーター音が聞こえる
  - ・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
  - ・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■TRC や S-VSC の自動復帰について

TRC や S-VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

- “エンジンスタートストップ” スイッチ、またはエンジン スイッチを OFF にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
  ただし、TRC と S-VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音 (“ウィーン” という音) が聞こえることがありますが、異常ではありません。

知識

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

⚠警告

次の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ABS の効果を発揮できないとき

- ●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に磨耗したタイヤで走行するときなど）
- ●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- ●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- ●タイヤチェーンを装着しているとき
- ●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- ●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

警告

■**スリップ表示灯が点滅しているときは**

S-VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■**TRC や S-VSC を OFF にするときは**

TRC や S-VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・S-VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や S-VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■**タイヤまたはホイールを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 351）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・S-VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■**アクティブトルクコントロール 4WD について（4WD 車）**

- ラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性への寄与を目的とした 4WD ですので、無理な走行はしないでください。
- すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■荷物を積むときは

- 次の場所には荷物を積まないでください。
  お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 運転席足元
  - 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
  - インストルメントパネル
  - ダッシュボード
  - フタのない小物入れ／トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
  安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

⚠ 警告

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。
  これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

● タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（→P. 246）

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷がついているときは、取り除いてください。

● 乗車する前に靴底についた雪をよく落としてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

■駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。
パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止めをしてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

・安全に作業できる場所で行う
・前 2 輪に取り付ける
・タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
・取り付け後、0.5 ～ 1.0 km 走行したら締め直しを行う

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低いほうをこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

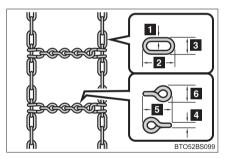
■**タイヤチェーンの使用について**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■**フロントウインドウガラスについた氷を除去するときは**

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

タイヤチェーンの選択について（17 インチタイヤ装着車）

タイヤチェーンを装着する際は、正しいサイズのタイヤチェーンを使用してください。

サイドチェーン：

1 3.0mm

2 30.0mm

3 10.0mm

クロスチェーン：

4 4.0mm

5 25.0mm

6 14.0mm

室内装備の使い方 3

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

オートエアコン...................... 198
リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）.......................... 206
ウインドシールドデアイサー.......................... 208

3-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 209

3-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧......................... 214

3-4. その他の室内装備の使い方

サンバイザー......................... 226
バニティミラー..................... 227
時計 228
アクセサリーソケット 229
フロアマット......................... 230
買い物フック......................... 232
アシストグリップ.................. 233
ステアリングスイッチ 234
ラゲージルーム..................... 236

オートエアコン

設定温度にあわせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

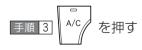
吹き出し口表示
設定温度表示
12:00
TEMP 20.0
OUTSIDE 20
nanoe
ナノイー＊
外気温表示
風量表示
H M :00
TEMP
花粉除去
A/C
AUTO
内気 / 外気切りかえ
エアコンの ON・OFF
オート設定
MODE
OFF
吹き出し口切りかえ
送風停止
FRONT
REAR
フロントガラス曇り取り
設定温度調整
風量切りかえ
BTO31CS001

オート設定を使うとき

を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 設定温度をかえるときは、温度調整ダイヤルを右（暖）または左（冷）へまわす

を押す

スイッチを押すたびにエアコンの ON・OFF が切りかわります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON・OFF を切りかえるには

を押す

スイッチを押すたびにエアコンの ON・OFF が切りかわります。

■ 設定温度をかえるには

設定温度をかえるときは、温度調整ダイヤルを右（暖）または左（冷）へまわす

■ 風量をかえるには

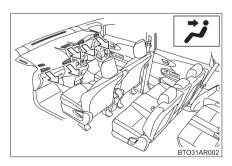
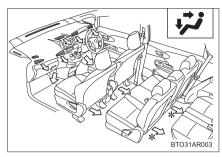
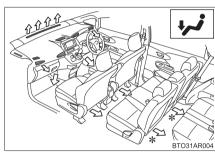
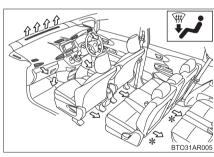
（増）か（減）を押す

風量は 7 段階に調整できます。

送風を止めるときは
を押す

■ 吹き出し口を切りかえるには

を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

上半身に送風

上半身と足元に送風

足元に送風

足元に送風・ガラスの曇りを取る

＊一部車種のみ

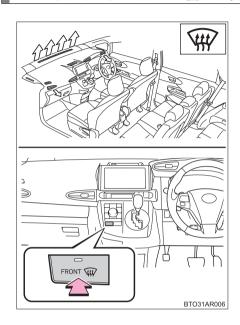
■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

 を押す

スイッチを押すたびに、外気導入・内気循環が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、[スイッチ] の作動表示灯が点灯します。

フロントウインドウガラスの曇りを取るには

 を押す

エアコンが作動します。

曇りが取れたら再度 FRONT を押すと前のモードにもどります。

花粉除去機能を使うには

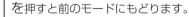
を押す

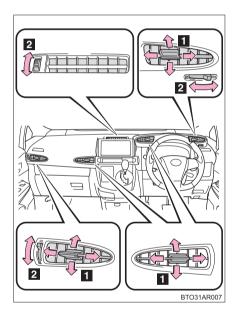
内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約３分後に（外気温が低いときは 約１分後に）

を押す前のモードにもどります。

途中で動作を止めるときは再度 を押すと前のモードにもどります。

「ナノイー」を使うには＊

[＾] か [ˇ] を押してファンを作動させる

ファンが作動すると自動的に「ナノイー」が作動し，表示部に「nanoe」が表示されます。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■オート設定の作動について

次のような制御をする場合があります。

●外気温が高いとき設定温度を下げると内気循環に切りかわる

● AUTO を押した直後しばらく送風が停止する

●暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気温度が0℃以下のとき

を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■フロントウインドウガラスの曇りを取るとき

内外気の温度によって自動的に外気導入に切りかわる場合があります。

■花粉除去モードについて

外気温が低いときは、ガラスの曇り防止のために次のような作動をすることがあります。

●内気循環に切りかわらない

●エアコンの電源が自動的に入る

湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

知識

■「ナノイー」※1について（「ナノイー」装着車）

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は運転席側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気で満たします※2。

●ファンが作動すると、自動的に「ナノイー」が作動します。

●「ナノイー」の作動中、以下の条件で効果を発揮します。以下の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が 、 または のとき
・運転席側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※1：「nanoe」・「ナノイー」および「nanoe」ロゴマークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2：車室内の環境（温度・湿度）・風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■PTC ヒーターについて（寒冷地仕様車）

エンジン冷間時の暖房効果を高めます。
エコドライブモード OFF（→P. 149）で最大暖房時に、コンピューターが急速暖房を必要と判断した場合、自動的に PTC ヒーターが作動します。エンジンが暖まると自動的に作動が停止します。

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

●停車しているときや、低速走行（約 20 k m/h 以下）のとき

●外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは FRONT を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り視界をさまたげる場合があります。

■「ナノイー」について（「ナノイー」装着車）

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

注意

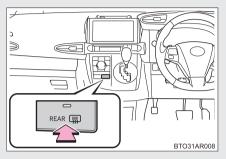
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

■「ナノイー」の損傷を防ぐために（「ナノイー」装着車）

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かないおそれがあります。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウガラスの曇りを取るときにお使いください。

オン／オフ

リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的にオフになります。ただし、外気温やバッテリーの出力負荷など、条件により最大約 60 分間作動することがあります。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションONモードのとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが “ ON ” のとき

■ミラーヒーターについて（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーを ON にするとミラーヒーターも同時に作動します。

警告

■ミラーヒーター作動中の警告（ミラーヒーター装着車）

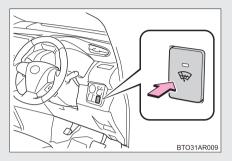
ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

■**バッテリーあがりを防ぐために**

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

ウインドシールドデアイサー＊

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにお使いください。

オン／オフ

ウインドシールドデアイサーは、約 15 分で自動的にオフになります。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションONモードのとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが “ ON ” のとき

警告

■作動中の警告

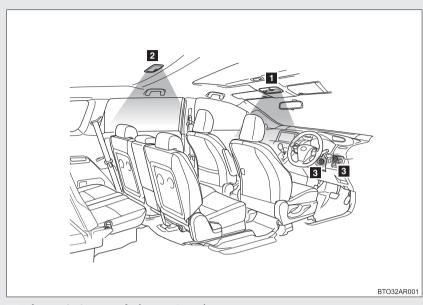
フロントウインドウガラス下部および運転席側フロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内灯一覧

1 パーソナルランプ（→P. 211）

2 ルームランプ（→P. 213）

3 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明
（スマートエントリー&スタートシステム装着車）
エンジン スイッチ照明
（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

知識

■バッテリーあがりを防ぐために

半ドア状態でルームランプスイッチがドアポジションのときに、ルームランプと“ エンジン スタート ストップ ”スイッチ照明（スマートエントリー&スタートシステム装着車）または、エンジン スイッチ照明（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■販売店で設定可能な機能

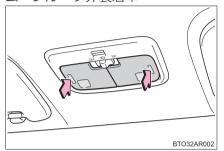
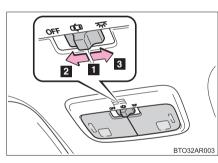
室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（ユーザーカスタマイズ機能一覧 →P. 354）

■イルミネーテッドエントリーシステム

ルームランプスイッチがドアポジションのときは、電子キー*の検知、ドアの施錠・解錠、開閉、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）の状態により、各部照明が自動的に点灯、消灯します。ただし、パーソナルランプスイッチが OFF のとき、ルームランプスイッチをドアポジションにしてもルームランプのイルミネーテッドエントリーは作動しません。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

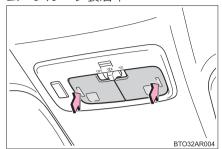
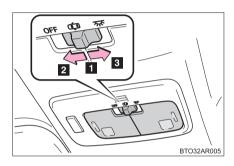
パーソナルランプ

▶ ムーンルーフ非装着車

点灯 / 消灯

1 ドアポジション（ドア連動）

2 OFF

3 ON（点灯）

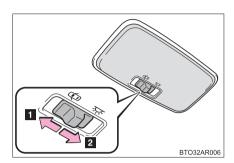
スイッチを操作すると、連動してルームランプも作動します。

▶ ムーンルーフ装着車

点灯 / 消灯

1 ドアポジション（ドア連動）

2 OFF

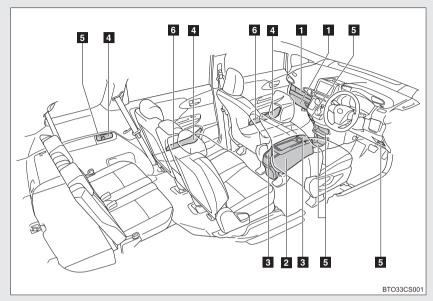
3 ON（点灯）

スイッチを操作すると、連動してルームランプも作動します。

ルームランプ

1 ドアポジション（ドア連動）

ドア連動にしていると、パーソナルランプに連動して作動します。

2 ON（点灯）

収納装備一覧

1 助手席アッパートレイ・
グローブボックス（→P. 215）

2 コンソールボックス＊（→P. 216）

3 カップホルダー（→P. 218）

4 ボトルホルダー（→P. 220）

5 小物入れ＊（→P. 222）

6 ドアポケット(→P. 224）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

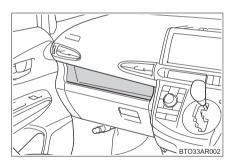
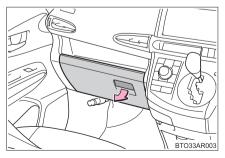
⚠ 警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

助手席アッパートレイ・グローブボックス

▶ 助手席アッパートレイ

▶ グローブボックス

レバーを引く

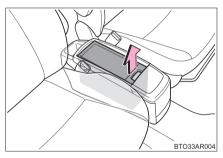
⚠ 警告

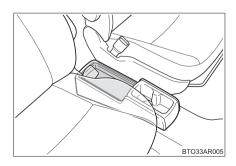
■走行中の警告

● グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

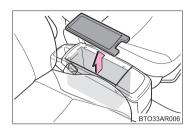
● 助手席アッパートレイにものを置いたままにしないでください。
急ブレーキ時や事故のときに収納していたものが飛び出したりして、思わぬけがをするおそれが危険です。

コンソールボックス*

▶ 大型コンソールボックス

トレイはフタも兼ねており、取りはずしても使用できます。

▶ コンソールボックス

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■コンソールトレイ*について

取りはずせば、バッグなどの大きなものも収納することができます。

警告

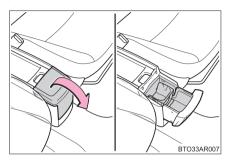
■走行中の警告

取りはずしたコンソールトレイは、ドアポケットなどに収納してください。
コンソールトレイをシートなどに置いたままにしておくと、急ブレーキ時などにコンソールトレイが体にあたったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

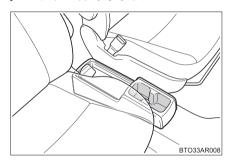
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

カップホルダー*

▶ 大型コンソールボックス

BTO33AR007

前側を使用するときは、カップホルダーを引き出す

▶ コンソールボックス

BTO33AR008

知識

■カップホルダー（大型コンソールボックス）について

カップホルダー内の仕切り板を取りはずすと、1 リットルサイズのペットボトルなどを収納することができます。ただし、ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

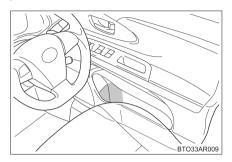
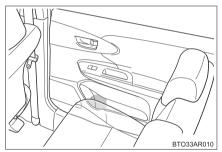
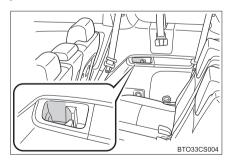
■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶（ペットボトル）以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■使わないときは

引き出し式のカップホルダーは、必ず閉めてください。
急ブレーキ時などに、引き出したカップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

ボトルホルダー

▶ フロント席用

▶ セカンド席用

▶ サード席用

知識

■ボトルホルダーについて

- ●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ●ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

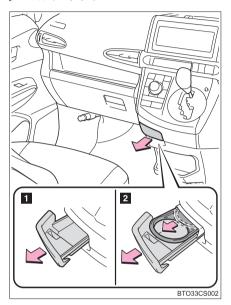
注意

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れ

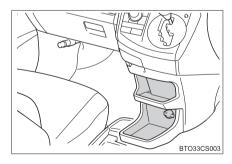
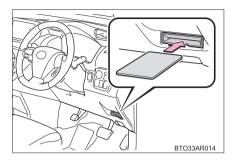
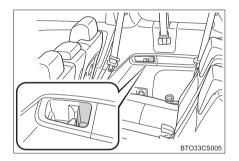
▶ マルチボックス

BTO33CS002

フタを引いて開ける

小物入れとコインポケットがあります。

フタを引き出した状態で、汎用タイプの灰皿（別売）、またはカードホルダーとしても使用できます。

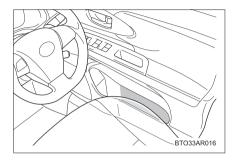
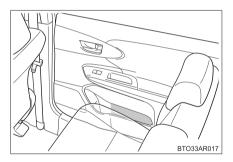
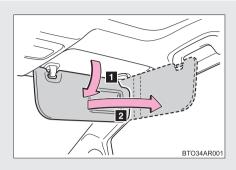
▶ 2 段トレイ

BTO33CS003

▶ カードホルダー

▶ サードシートトレイ

⚠ 警告

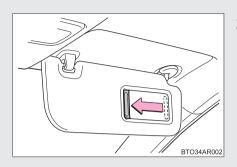
■走行中の警告

小物入れを開けたままにしないでください。
急ブレーキ時などに、開いた小物入れに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

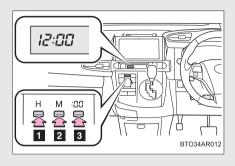
ドアポケット

▶ フロントドア

▶ リヤドア

サンバイザー

1 下ろす

2 下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー

カバーを開けて使用します。

時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

1 “ 時 ” を調整する（H）

2 “ 分 ” を調整する（M）

3 “ 分 ” を 00 にする※（:00）

※（例）1:00 ～ 1:29→1:00
1:30 ～ 1:59→2:00

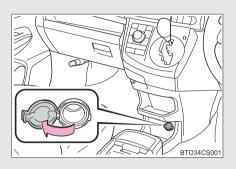
知識

■時刻が表示されるとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき

アクセサリーソケット

12 V 10 A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

知識

■使用条件

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

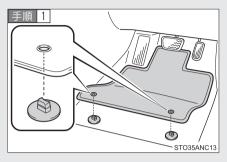
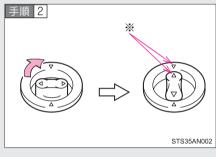
■ヒューズが切れるのを防ぐために

12V 10A をこえないようにしてください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む

固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※△マークを必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

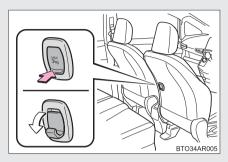
■**運転席にフロアマットを敷くときは**

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■**運転する前に**

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

買い物フック

▶ 運転席シートうしろ側

フックを引き起こします。

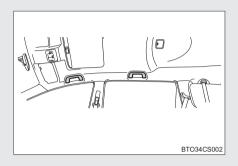
⚠ 注意

■破損を防ぐために

● フックを使用しないときは、格納しておいてください。

● 3kg 以上のものや大きいものをフックに吊り下げないでください。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

⚠ 警告

■アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

⚠ 注意

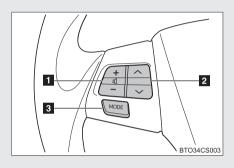
■破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

ステアリングスイッチ＊

トヨタ販売店で装着したナビゲーションシステムや、オーディオを操作することができます。

モードの切りかえや CD、ラジオなどの操作については、装着されたオーディオにより異なる場合や、操作できない場合があります。

● 販売店オプションのナビゲーションシステムや、オーディオの操作方法は、各取扱書をご覧ください。

1 音量を調節する

2 CD、ラジオなどの操作

3 電源を入れる、モードを切りかえる

電源を入れる

を押す

スイッチを長押しするとオーディオの電源が OFF になります。

・ 装着されたオーディオにより“ピッ”と音が鳴ることがあります。

モードを切りかえる

電源が ON のとき

を押す

押すごとにモード（CD、ラジオなど）が切りかわります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

音量を調節するには

の＋または－を押す

スイッチを押し続けると、音量を連続して調節できます。運転のさまたげにならない適度な音量でお聞きください。

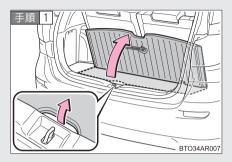
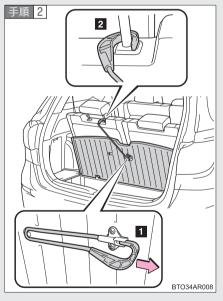
選局または選曲するには

電源が ON のとき を押す

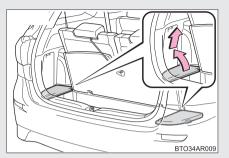
スイッチを押して、お聞きになりたい放送局や CD で再生したい曲を選択します。

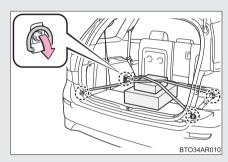
ラゲージルーム

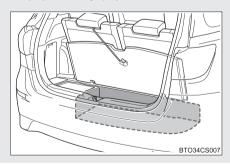
■ デッキボード

中央デッキボードは下記の手順で固定することができます。

デッキボードを持ち上げる

1 デッキボード裏面のフックを取りはずす

2 フックをヘッドレストのステーに引っかけて固定する

▶ 左右デッキボード

左右のデッキボードも取りはずすことができます。

■ デッキフック

フックを使って荷物を固定することができます。

■ ラゲージボックス*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■デッキフックを使用しないときは

必ずもとの位置にもどしておいてください。

お手入れのしかた

4

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ........................ 240
内装の手入れ........................ 244
タイヤについて..................... 246

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 251
ガレージジャッキ................. 253
電球（バルブ）の交換.......... 256
ヒューズの点検、交換.......... 270
キーの電池交換..................... 277
ウォッシャー液の補給.......... 281
エアコンフィルターの交換.. 283

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

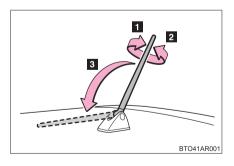
- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）にワックスをかけます。

なお、ボデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

洗車時には、アンテナを取りはずしたり、格納することができます。

自動洗車機で洗車するときは、必ずアンテナを取りはずしてください。

1 取りはずす
2 取り付ける
3 格納する

ラジオ受信時は、節度感のある所まで立てて使用してください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- リヤスポイラーがひっかかり洗車できない場合や傷ついたり破損するおそれがあります。

■高圧洗車機を使うときは

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 自動洗車機に入れる前に、車両の給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■ 洗車をするときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（キーの盗難に注意してください）
- 車室内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、車室外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すればブザーは止まります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いてください。

■アルミホイール*

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■レインクリアリングミラーの親水効果回復作業について

鏡面の親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します（→ P. 84）が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

手順 1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す

手順 2 水を含ませたきれいなやわらかい布などで汚れを落とす

手順 3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す

手順 4 きれいなやわらかい布などで鏡面に付いた水をふき取る

手順 5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を 5 時間程度あてる
（汚れの量や種類により、回復時間は異なります。）

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジン停止直後などにふれないでください。やけどをするおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを格納してください。

●車庫の天井などにアンテナがあたるとき

●カーカバーをかけるとき

■アンテナの取りはずしについて

●通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。

●自動洗車機使用時などでアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおり取り付けてください。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

■ 室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る。

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■ カーペットの洗浄

カーペットは、極力乾いた状態で保つことをおすすめします。
洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗りこんでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。
シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。
（→ P. 73）

警告

■ 車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。（→ P. 102）
  電気的不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

警告

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他の揮発性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■フロアに水がかかると

フロアを水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

● タイヤ空気圧

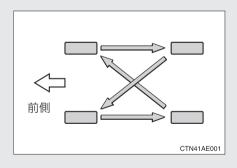
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

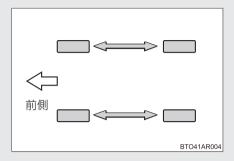
● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

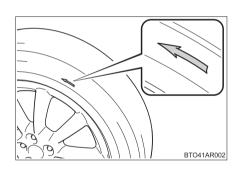
■ タイヤローテーションのしかた

▶ 15 インチまたは 16 インチタイヤ装着車

図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

▶ 17 インチタイヤ装着車

図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

回転に方向性があるタイヤ（17 インチタイヤ装着車）

回転方向指示マーク

タイヤの側壁に回転方向が表示されています。間違った方向にタイヤを装着してしまうと、タイヤの性能を損ないます。

知識

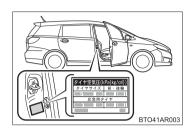
■低偏平タイヤについて（215/50R17 装着車）

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤかタイヤチェーンを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■低偏平タイヤの空気圧点検（215/50R17 装着車）

低扁平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

▶ 標準タイヤ

タイヤサイズ		タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm²)	
		前輪	後輪
195/65R15 91S	FF (前輪駆動)	230 (2.3)	
	4WD (4 輪駆動)	240 (2.4)	
195/60R16 89H		230 (2.3)	
215/50R17 91V		220 (2.2)	

▶ 応急用タイヤ

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm²)	
	前輪	後輪
T135/80D16 101M	420 (4.2)	

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■点検、交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。
- ●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しないでください。
- ●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しないでください。

■タイヤサイズの変更

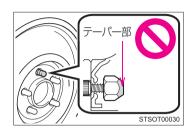
新車時に装着されているタイヤサイズによって、ホイールサイズやステアリングギヤレシオが異なるため、装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着しないでください。サイズの異なるタイヤやホイールを装着した場合に車両の安定性が十分に確保できなくなるおそれがあり危険です。
例えば、装着タイヤのサイズが 195/60R16 の車両に 215/50R17 のサイズのタイヤを装着することはできません。

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故になるおそれがあり危険です。

- ●破裂などの修理できない損傷を与える
- ●車が横すべりする
- ●車の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

⚠ 警告

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

⚠ 注意

■低偏平タイヤについて

215/50R17 のような低偏平タイヤ付きホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。
そのため次のことにご注意ください。

●適切なタイヤ空気圧で使用してください。空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

●路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避けてください。
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

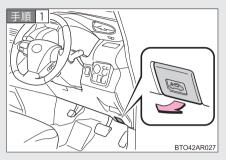
■走行中に空気漏れが起こったら

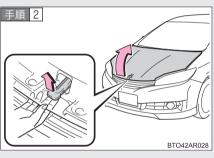
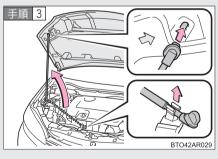
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネットオープナーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを引き上げてボンネットを開ける

ボンネットステーをステー穴に挿し込む

矢印のある側の穴に挿し込んでください。

知識

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすとコンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

BTO42AR030

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

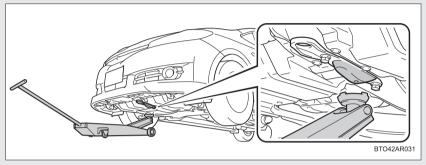
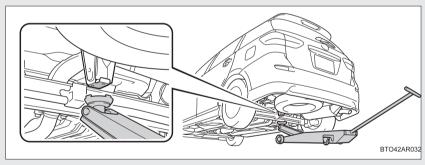
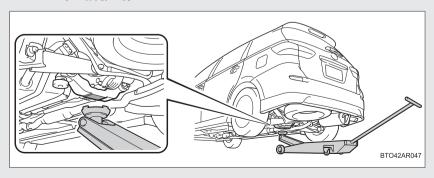
注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント

■ リヤ（前輪駆動）

■ リヤ（4 輪駆動）

警告

■車両を持ち上げるときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

BTO42AR033

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ちあげる

●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する

●車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。

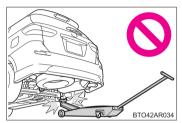
●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない

●ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。

●車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しないでください。

●平らで硬い地面に停車させ、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にする

警告

●ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ちあげると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

●リヤサスペンション部などで、ジャッキアップしないでください。
車両が損傷します。

●車内に乗員がいるときは車両を持ちあげない

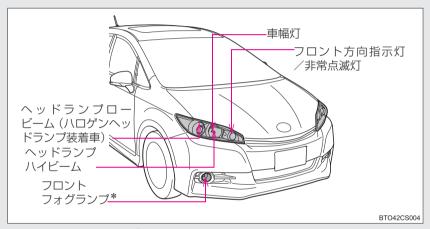
●車両を持ちあげるときは、ガレージジャッキの上または下にものを置かない

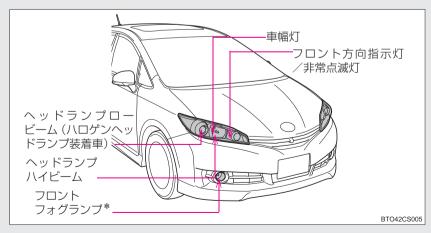
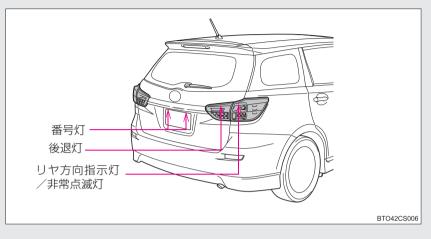
電球（バルブ）の交換

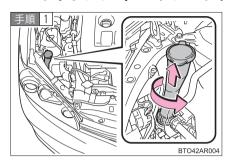
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球により異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

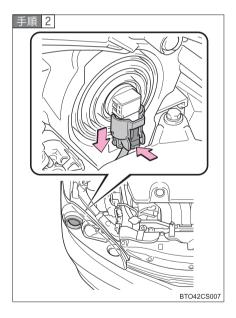
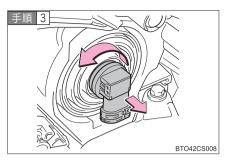
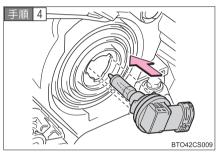
■ 電球の用意

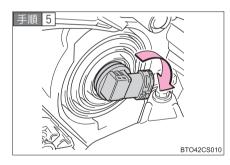
切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→P. 352）

■ フロントのバルブ位置（エアロバンパー装着車）

■ フロントのバルブ位置（標準バンパー装着車）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ リヤのバルブ位置

電球交換のしかた

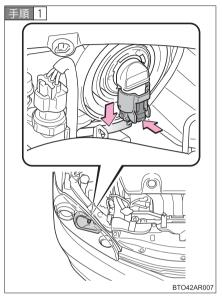
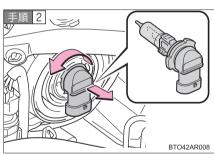
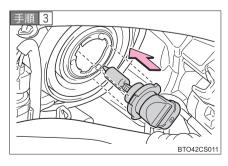
■ ヘッドランプ（ハロゲンヘッドランプ装着車のロービーム）

運転席側の場合は、ウォッシャータンクインレットを取りはずす

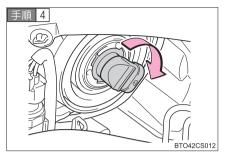
インレットを取りはずす際は、回転させながら引き抜き、ウォッシャー液がこぼれないよう注意してください。ウォッシャー液を規定量以上補給している場合、こぼれることがあります。（→P. 281）

コネクターを取りはずす

電球を取りはずす

電球を交換し、取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）をあわせて挿し込みます。

電球をまわして固定し、コネクターを取り付ける

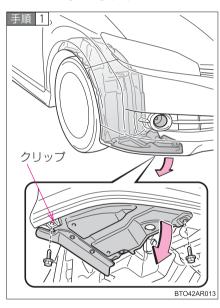
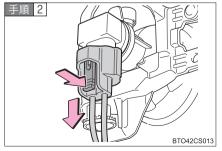
電球を軽くゆさぶって、ぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプ（ロービーム）を点灯させ、電球の取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

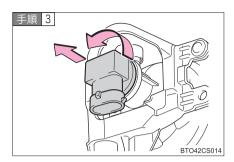
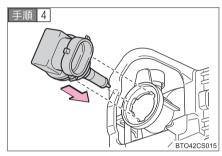
手順 6 手順 1 でウォッシャータンクインレットを取りはずした場合は、もとにもどす

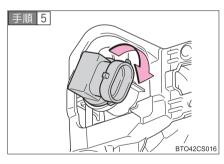
■ ヘッドランプ（ハイビーム）

コネクターを取りはずす

電球を取りはずす

電球を交換し、取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3 か所）をあわせて挿し込みます。

電球をまわして固定し、コネクターを取り付ける

電球を軽くゆさぶって、ぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプ（ハイビーム）を点灯させ、電球の取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

■ フロントフォグランプ*

ボルトを取りはずし、クリップをずらしてフェンダーライナーをめくる

コネクターを取りはずす

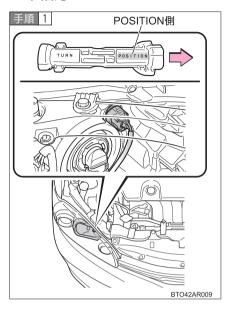
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球を取りはずす

電球を交換し、取り付ける

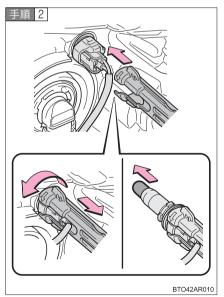
取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）をあわせて挿し込みます。

電球をまわして固定し、コネクターを取り付ける

電球を軽くゆさぶって、ぐらつきがないことを確認し、いったんフロントフォグランプを点灯させ、電球の取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

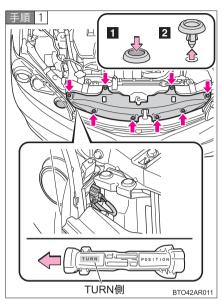
手順 6 フェンダーライナーをもとにもどす

■ 車幅灯

手順 1

工具袋に収納されているバルブ交換ツール（→P. 301）の”POSITION”側を車幅灯のソケットにはめ込む

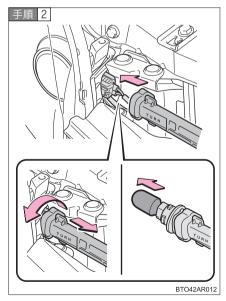
手順 2

バルブ交換ツールをまわしてソケットを取りはずしたあと、電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

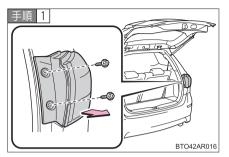
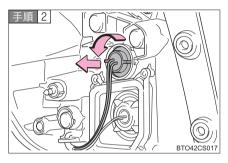
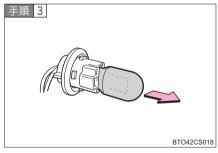
■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

固定クリップ８本をはずして、カバーを取りはずす

1 クリップの中心を押す

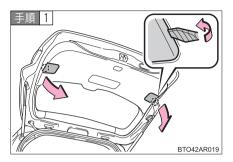
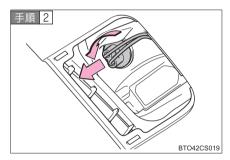
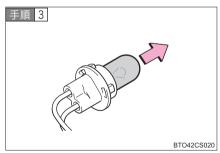
2 クリップを引き抜く

次に、工具袋に収納されているバルブ交換ツール（→P. 301）の”TURN”側をフロント方向指示灯／非常点滅灯のソケットにはめ込む

バルブ交換ツールをまわしてソケットを取りはずしたあと、電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

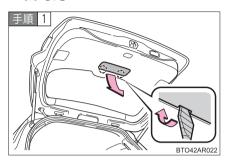
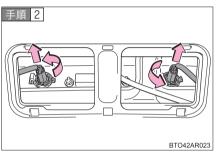
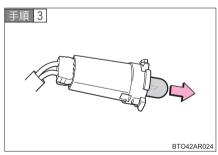
■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

バックドアを開け、ボルト 2 本を取りはずす

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 後退灯

バックドアを開け、カバーを取りはずす

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯

バックドアを開け、カバーを取りはずす

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 次の電球を交換するには

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

● ヘッドランプロービーム（ディスチャージヘッドランプ装着車）

● ハイマウントストップランプ

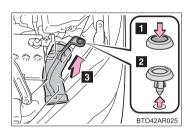
● サイド方向指示灯／非常点滅灯

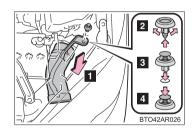
● 制動灯／尾灯

知識

■助手席側のヘッドランプ（ロービーム）を交換するときは（ハロゲンヘッドランプ装着車）

エアクリーナーダクト上部の固定クリップをはずし、ダクトを取りはずすと電球の交換作業がしやすくなります。電球交換後は、必ずエアクリーナーダクトを取り付け、ダクト上部をクリップでしっかり固定してください。

●エアクリーナーダクト上部の取りはずし方

1 クリップの中心を押す
2 クリップを引き抜く
3 ダクトをはずす

●クリップの取り付け方

1 ダクトを取り付ける
2 クリップ先端部を押し込む
3 クリップを差し込む
4 クリップの中心を押す

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

●レンズ内側に大粒の水滴が付いている

●ランプ内に水がたまっている

■ディスチャージヘッドランプの作動（ディスチャージヘッドランプ装着車）

作動電圧範囲をはずれると、ランプが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

警告

■**電球を交換するときは**

●ランプは消灯してください。消灯直後は熱いため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電による重大な傷害の原因となります。

■**ディスチャージヘッドランプについて（ディスチャージヘッドランプ装着車）**

●交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電による重傷の原因になることがあります。

注意

■**お車の故障や火災を防ぐために**

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

■**お車の故障を防ぐために**

●電球を交換するときに取りはずした固定クリップやカバーなどの部品は、もとどおりに取り付けてください。

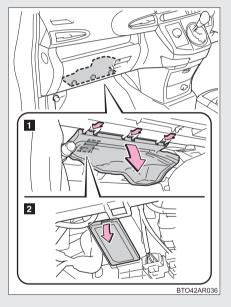
●バルブ交換ツールはこの車専用の工具です。
他車の電球交換には使用しないでください。

ヒューズの点検、交換

ランプが点灯しないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

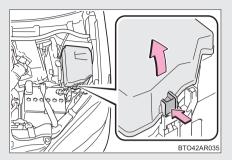
手順 1 スマートエントリー&スタートシステム装着車：
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にする
スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジン スイッチを “ LOCK ” にする

手順 2 ヒューズボックスを開ける

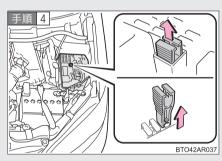
▶ 助手席足元

1 足元にカバーが取り付けられている場合は、カバーを取りはずす

2 ヒューズボックスカバーを取りはずす

▶ エンジンルーム

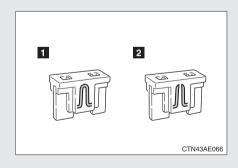
BTO42AR035

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 272)で確認する

BTO42AR037

手順 4 ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

ヒューズはずしは、エンジンルーム側ヒューズボックスにあります。

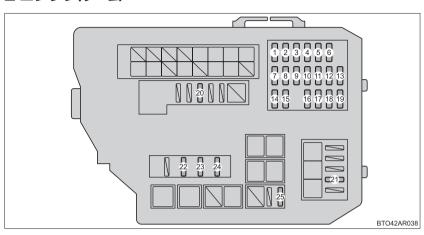
手順 5 ヒューズが切れていないか点検する

CTN43AE066

1 正常

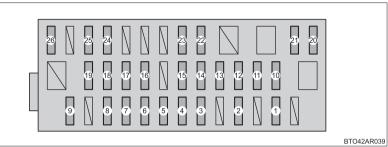
2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	EFI NO. 2	10 A	EFI システム
2	EFI NO. 1	10 A	EFI システム
3	H-LP RH HI	10 A	右側ヘッドランプ（ハイビーム）
4	H-LP LH HI	10 A	左側ヘッドランプ（ハイビーム）
5	H-LP RH LO	15 A	右側ヘッドランプ（ロービーム）
6	H-LP LH LO	15 A	左側ヘッドランプ（ロービーム）
7	ETCS	10 A	電子制御スロットル
8	TURN&HAZ	10 A	方向指示灯／非常点滅灯
9	ALT-S	7.5 A	オルタネーター
10	AM2 NO. 2	7.5 A	パワーマネジメント ECU
11	AM2 NO.1	30 A	スターターマグネット
12	STRG LOCK	20 A	ステアリングロック
13	INJ	15 A	インジェクター、イグナイター
14	IG2 NO.2	7.5 A	始動系（イグニッションスイッチ）

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
15	ECU-B NO.2	10 A	エアコン、パワーウインドウ、照合 ECU、ヒーターコントロールスイッチ
16	D.C.C	ー	未使用（暗電流カット用）
17	ECU-B NO.1	10 A	メインボデー ECU、メーター、ETC、照合 ECU、ワイヤレスドアロックシステム、ステアリング SSR
18	RAD	15 A	オーディオ
19	DOME	10 A	室内灯
20	AMP	20 A	オーディオアンプ
21	DEICER	20 A	ウインドシールドデアイサー
22	EFI MAIN	20 A	EFI システム、EFI NO. 1、EFI NO. 2
23	HORN	10 A	ホーン
24	IG2-MAIN	15 A	EFI システム、メーター、エアバッグ、ステアリングロック、照合 ECU
25	WIPER-S	7.5 A	パワーマネジメント ECU

■ 助手席足元

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ACC	10 A	電動ミラー、シフトロックシステム、メインボデー ECU、ETC、ヒーターコントロールスイッチ、オーディオアンプ
2	MIR HTR	10 A	ミラーヒーター、EFI ECU
3	WIP	25 A	フロントワイパー
4	WIP RR	15 A	リヤワイパー
5	WASHER	15 A	ウォッシャー
6	HTR-IG	10 A	エアコン、ナノイー、ヒーターコントロールスイッチ
7	GAUGE NO.1	10 A	オルタネーター、フラッシャーリレー
8	IG1 NO. 1	10 A	後退灯、リヤウインドウデフォッガーリレー、ウインドシールドデアイサーリレー、電動ファンリレー、ウインドシールドデアイサースイッチ、EFI ECU
9	ECU-IG	10 A	ボデー ECU、ムーンルーフ、EPS、シーケンシャルスイッチ、オートレベリング、シフトロック、4WD ECU、S-VSC ECU、ヨーレートセンサー、ステアリングセンサー
10	DOOR RL	25 A	パワーウインドウ
11	DOOR RR	25 A	パワーウインドウ

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
12	METER	7.5 A	メーター
13	IG2 NO.1	7.5 A	ステアリングロック、SRS エアバッグシステム、照合 ECU、パワーマネジメント ECU、EFI システム
14	S/ROOF	30 A	ムーンルーフ
15	DOOR FL	25 A	パワーウインドウ
16	STOP	10 A	制動灯、ハイマウントストップランプ、ABS、S-VSC、パワーマネジメント ECU、EFI システム、シフトロック
17	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
18	4WD	7.5 A	4WD ECU
19	AM1	10 A	始動系（イグニッションスイッチ）
20	FOG FR	7.5 A	フロントフォグランプ
21	WELCAB	30 A	ウェルキャブシステム
22	FOG RR	7.5 A	リヤフォグランプ
23	D/L	25 A	パワードアロックシステム
24	PANEL	10 A	スイッチ照明、メーター照明、ステアリングスイッチ
25	TAIL	10 A	車幅灯、尾灯、番号灯、フロントフォグランプ、リヤフォグランプ、光軸調整スイッチ、メーター照明、EFI システム
26	P/OUTLET NO.1	15 A	アクセサリーソケット

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P. 256）

●取りかえても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

⚠警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

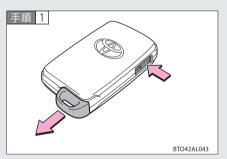
●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- リチウム電池
  CR1632（スマートエントリー&スタートシステム装着車）
  CR2016（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

■ 電池交換のしかた（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

手順 1

BTO42AL043

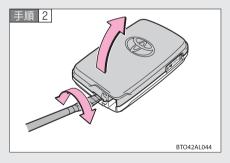
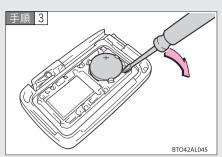
解除ボタンを押して、メカニカルキーを抜く

手順 2

BTO42AL044

カバーをはずす

手順 3

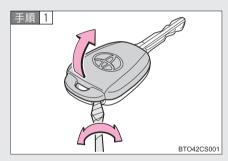
BTO42AL045

消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 電池交換のしかた（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

手順 1

BTO42CS001

カバーをはずす

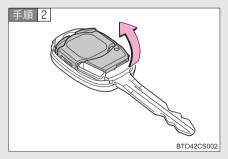
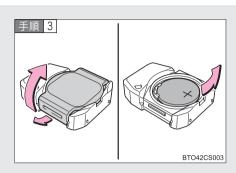
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

ボタン側を下向きにしてカバーをはずしてください。上向きにするとボタンがはずれるおそれがあります。

手順 2

BTO42CS002

モジュールを取り出す

手順 3

モジュールカバーをはずし、消耗した電池を取り出す

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■電池が消耗していると

次のような状態が起こります。

- ●スマートエントリー&スタートシステム（装着車のみ）、ワイヤレス機能が作動しない
- ●作動距離が短くなる

■リチウム電池の入手

リチウム電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

- ●スマートエントリー&スタート装着車：CR1632
- ●スマートエントリー&スタート非装着車：CR2016

警告

■取りはずした電池と部品について

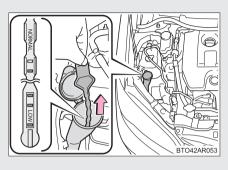
お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

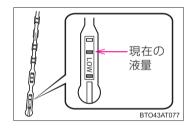
■交換後、正常に機能させるために

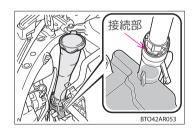
次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない
- ドライバーなどにテーピングをしたり布きれをあててからはずしてください。
  カバーに傷が付くおそれがあります。

ウォッシャー液の補給

液面が LOW の位置に近付いたらウォッシャー液を補給する

知識

■ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。

■ウォッシャー液を補給するときは

ウォッシャー液を補給する際は、インレットの接続部をこえる位置まで補給しないでください。接続部を超える位置までウォッシャー液を補給すると、接続部からウォッシャー液がもれることがあります。

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
車体の塗装にしみがつくおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

■ウォッシャー液の補給

ウォッシャー液を補給する際は、規定量以上入れないでください。
規定量以上のウォッシャー液を補給すると、ヘッドランプの電球交換時にインレットを取りはずした際、ウォッシャー液がこぼれることがあります。
(→P. 258)

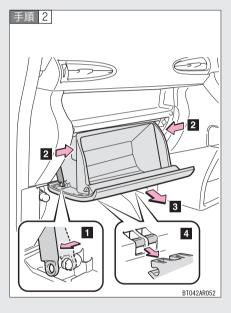
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

■ 交換のしかた

手順 1 スマートエントリー&スタートシステム装着車：
"エンジン スタート ストップ" スイッチを OFF にする
スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジン スイッチを "LOCK" にする

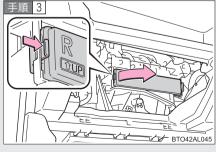
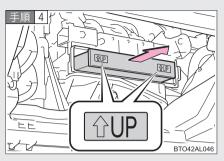
手順 2

グローブボックスを取りはずす

1 グローブボックスのダンパーステーのピンをはずします。

2 グローブボックス側面を内側に押してたわませながら、上部のツメを片側ずつはずします。

3 グローブボックスを手前に引き出します。

4 グローブボックス下部のツメをはずします。

手順 3

フィルターカバーを取りはずす

フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

交換：20,000km [10,000km ※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

● フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

● フィルターは交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

トラブルが起きたら

5

5-1. まず初めに

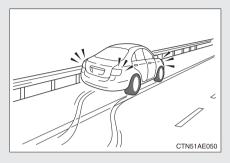
故障したときは 286
非常点滅灯（ハザードランプ）.............. 287
発炎筒 288
けん引について..................... 290

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは 294
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）....... 301
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）................................ 313
エンジンがかからないときは 328
シフトレバーがシフトできないときは 330
キーを無くしたときは 331
電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）................. 332
バッテリーがあがったときは 334
オーバーヒートしたときは .. 338
スタックしたときは 340
車両を緊急停止するには 342

故障したときは

故障のときは速やかに下記の指示に従ってください。

CTN51AE050

非常点滅灯（→P. 287）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

ITIRMO001

高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の50m以上後方に発炎筒（→P. 288）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

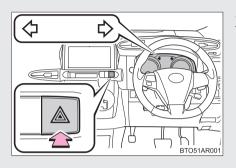
知識

■停止表示板・停止表示灯について

ITIRMO004

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯は、トヨタ販売店で購入することができます。

非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

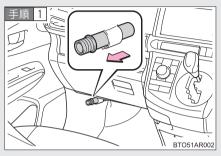
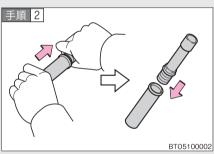
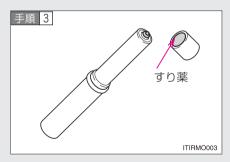
すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。

知識

■非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください。）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

助手席足元の発炎筒を取り出す

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

先端のフタをとり、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる。

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。

知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期間が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

●トンネル内

●ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない

●発炎筒は、お子さまにさわらせない

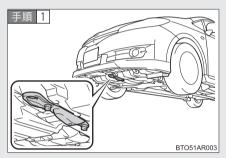
けん引について

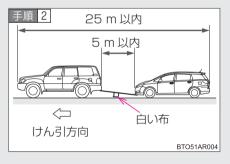
けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引する前に

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジンはかかるが、車が動かない
- 異常な音がする

■ けん引されるときは

車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンがかからないときは、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにします。

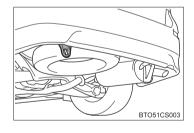
▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを “ ACC ” または “ ON ” にします。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

知識

■寒冷地仕様車の固縛用フック（リヤ）

緊急用フックとしても使用できます。
雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったときに緊急的に他車に引っ張り出してもらうときに使用するものです。
この車で他車をけん引することはできません。

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

⚠ 警告

■車両を運搬するときは

必ず４輪接地、または４輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
駆動装置が損傷したり、車が台車から飛び出すおそれがあります。また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず４輪を持ち上げて運搬してください。

■けん引中の運転について

●けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

●“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

●エンジン スイッチを“LOCK”にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

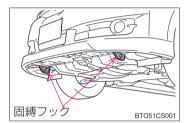
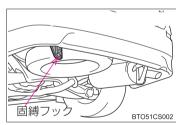
注意

■**車両の損傷を防ぐために**

●けん引するときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

■**固縛用フックについて**

固縛用フックは、船舶固縛で車両を輸送するときに使用するためのものです。けん引には絶対に使用しないでください。

■**長い下り坂でけん引するときは**

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）※** ・ブレーキ液の不足、またはブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※ **パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：**
パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が 5 km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。
警告ブザーが鳴ったときは、パーキングブレーキを解除してください。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電系統の異常
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常
(赤色点灯)	**水温警告灯** エンジンがオーバーヒートしている（→P. 338）

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
ABS	**ABS &ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯 EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
（点灯）	**スリップ表示灯** ・S-VSC システムの異常 ・TRC システムの異常
	ディスチャージヘッドランプ オートレベリング警告灯＊ 自動光軸調整システムの異常
4 WD	**4WD 警告灯＊** 4WD システムの異常
（点滅）	**クルーズコントロール表示灯＊** クルーズコントロールシステムの異常

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
(赤色点滅)	**水温警告灯** エンジンがオーバーヒート気味	注意して走行する
	半ドア警告灯 いずれかのドアが確実に閉まっていない	全ドアを閉める。
	燃料残量警告灯 燃料の残量（約 9L 以下）	燃料を補給
(点滅)	**運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）** ※ 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
PASSENGER (点滅)	**助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）** ※ 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用

※ **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

● 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

● 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

5 トラブルが起きたら

知識

■パワーステアリング警告灯について

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に点灯することがあります。

警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。ハンドルを操作して通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

ただちに処置してください。（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告灯	警告内容	対処方法
1 回	なし		車室内に電子キーがない状態でエンジンをかけようとした	車室内に電子キーがあるか確認する
			正規の電子キーが車室内にない状態で走行をはじめた	
			メカニカルキーで解錠して“エンジン スタートストップ”スイッチを押した際、車室内でキーを検出できなかった	ブレーキを踏みながら電子キーで“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれる
			“エンジン スタート ストップ”スイッチを押したときに車室内でキーを検出できないことが 2 回連続で続いた	

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告灯	警告内容	対処方法
1 回	連続音（10 秒間）		シフトレバーが P で“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに、運転席ドアを開閉して電子キーを車外に持ち出し、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあと、再度施錠する
1 回	3 回		運転席以外のドアを開閉して、電子キーを車外に持ち出した	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にする または 電子キーを車室内に持ち込む
			シフトレバーが P で、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに運転席ドアを開閉して、電子キーを車外に持ち出した	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にする または 電子キーを車室内に持ち込む

5

トラブルが起きたら

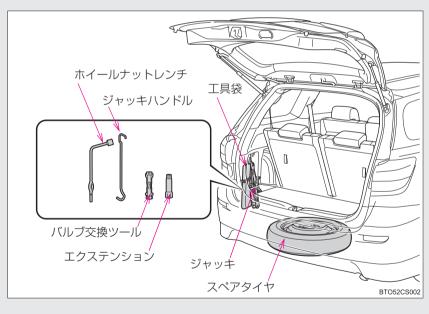
車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告灯	警告内容	対処方法
連続音	連続音		シフトレバーが P 以外で、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずに運転席ドアを開閉して、電子キーを車外に持ち出した	・“エンジン スタートストップ” スイッチを OFF にする ・シフトレバーを P にする ・電子キーを車室内に持ち込む

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

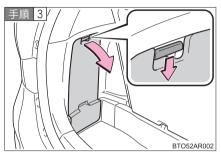
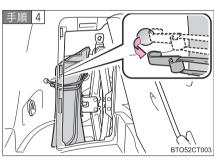
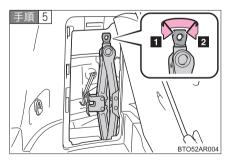
パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P. 246 をご覧ください。)

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具とジャッキ位置

工具袋、ジャッキの取り出しかた

手順 1 中央デッキボードを取りはずす（→P. 236）

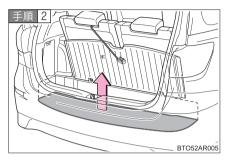
手順 2 左デッキボードを取りはずす（→P. 237）

カバーをはずす

固定バンドをはずし、工具袋を取り出す

ジャッキを取り出す

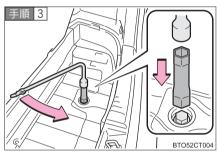
1 ゆるめる

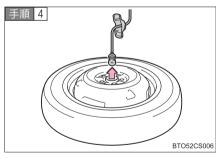
2 締める

応急用タイヤの取り出し方

手順 1 デッキボードを取りはずす（→P. 236）

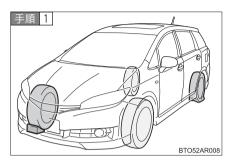
BTO52AR005

ラゲージルーム後部床上にあるマットの切り欠き部分をめくり、操作ボルトにエクステンションを取り付ける

BTO52CT004

エクステンションにホイールナットレンチを取り付け、操作ボルトをまわしながら応急用タイヤが地面に着くまでゆるめる

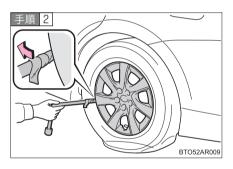
BTO52CS006

アタッチメントをホイール穴からはずし、応急用タイヤを取り出す

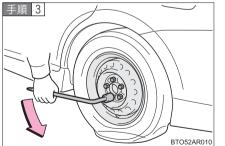
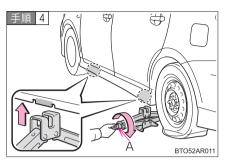
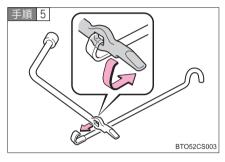
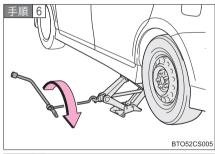
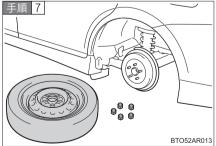
手順 5 アタッチメントをもとにもどす

ホイールナットレンチで操作ボルトを締め付けて、アタッチメントを巻き上げます。

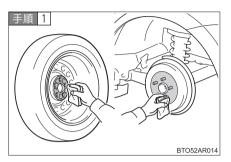
パンクしたタイヤの交換

輪止め※をする

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

ホイールキャップをはずす *

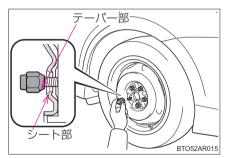
* スチールホイールのみ

ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

ホイールナットレンチをジャッキハンドルに組み付ける

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

ナットをすべて取りはずし、タイヤを取りはずす

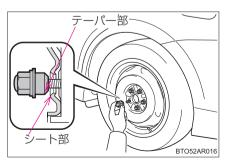
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にする。

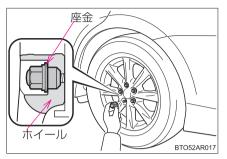
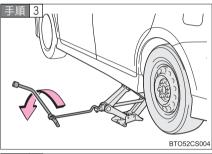
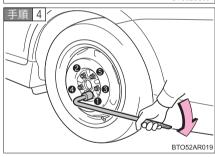
タイヤの取り付け

ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットが緩み、タイヤがはずれるおそれがあります。

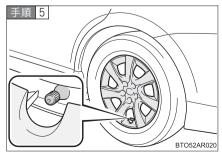
手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

▶ スチールホイールからスチールホイールにかえるとき（応急用タイヤを含む）

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

▶ アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

▶ アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

ナットの座金がホイールにあたるまでまわす

車体を下げる

図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

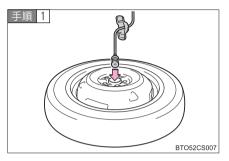
締め付けトルク：

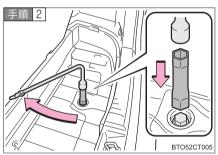
103 N・m (1050 kgf・cm)

ホイールキャップを取り付ける *

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付ける。

* スチールホイールのみ（応急用タイヤに取り付けることはできません）

手順 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

応急用タイヤの格納

アタッチメントをホイール穴に取り付ける

ホイールの意匠面を上にしてアタッチメントを取り付けてください。

操作ボルトにエクステンションを取り付け、ホイールナットレンチで操作ボルトを締め付ける

タイヤが地面から離れたときは、アタッチメントがホイール穴からはずれていないか確認してください。

知識

■応急用タイヤについて

- ●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみお使いください。
- ●空気圧を必ず点検してください。（→P. 351）

■操作ボルトの締めすぎ防止機構について

タイヤ格納時に操作ボルトを約 40 N・m（400 kgf・cm）以上の力で締め付けると、カチッと音がして、それ以上締め付けられない構造になっています。これは操作ボルトの締めすぎ防止機構の働きによるもので異常ではありません。

■エクステンションについて

エクステンションは、操作ボルトにのみ使用するものです。他の部品には使用しないでください。

警告

■**ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

● ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
● 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
● ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
● ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
● ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
● 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
● 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものをのせない
● 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
● 車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

警告

■**タイヤ交換について**

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります

・ホイールの交換後はすぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける（→P. 250）

■**応急用タイヤを使用するときは**

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください

●同時に２つ以上のスペアタイヤを使用しないでください

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください

●急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回は避けてください

■**応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ●ABS
- ●ブレーキアシスト
- ●S-VSC
- ●TRC
- ●クルーズコントロール*

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- ●4WD システム*

注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときはご注意ください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。
雪道、凍結路で前輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪として使用せず、後輪に使用し、はずした後輪を前輪に付けてからタイヤチェーンを装着してください。

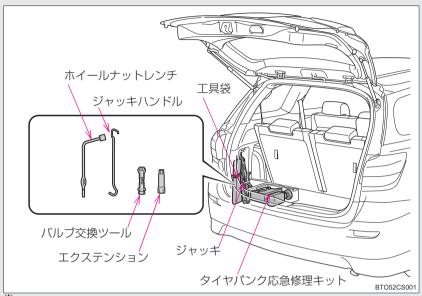
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。
タイヤがパンクしたときにタイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やねじなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です。）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P. 316）
タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。タイヤパンク応急修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

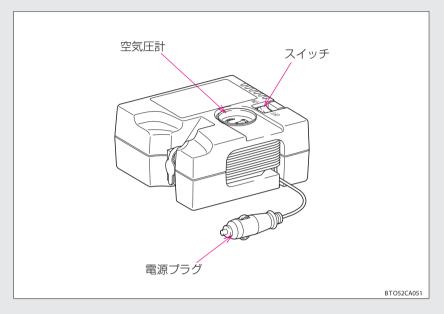
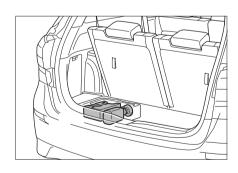
■ 応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

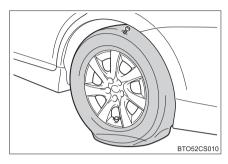
■ タイヤパンク応急修理キットと工具、ジャッキの位置

※：ジャッキの使い方（→P. 304）

■ タイヤパンク応急修理キットの内容、各部名称

ボトル

コンプレッサー

応急修理キットの格納場所

ラゲージルームの左側デッキボードの下（→P. 237）

応急修理する前に

応急修理をする前に、タイヤ損傷の程度を確認する。

釘やねじなどが刺さった場合のみタイヤを応急修理してください。

- タイヤに刺さっている釘やねじなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ応急修理が出来なくなることがあります。
- パンク補修液が漏れないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

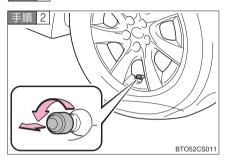
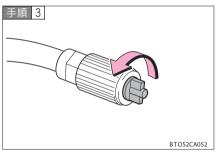
⚠ 注意

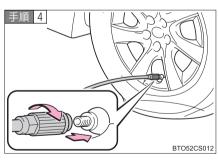
■応急修理キットによる応急処置が不可能な場合

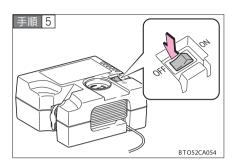
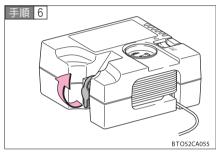
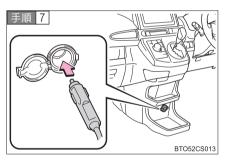
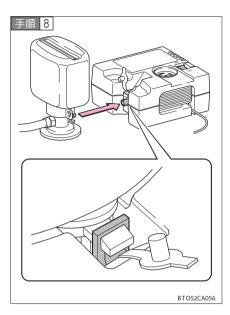
次のときは、応急修理キットでは応急処置できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

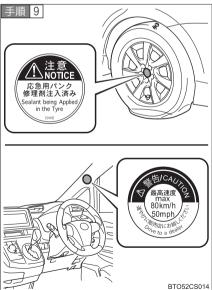
- ●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- ●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- ●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- ●タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ●ホイールが破損しているとき
- ●2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- ●1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ●補修液の有効期限が切れているとき

応急修理するときは

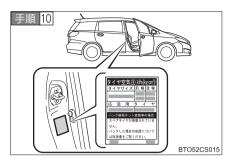
手順 1 応急修理キットをカバーから取り出す

パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす

ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

ボトルのホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込む。

コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する

コンプレッサーのゴム栓をはずす

コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む(→P. 229)

ボトルをコンプレッサーに接続する

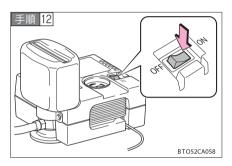
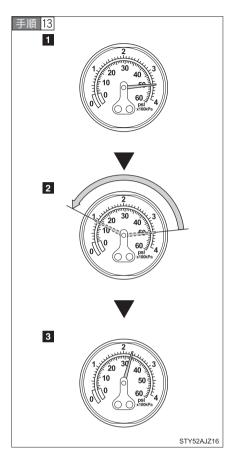
しっかりと接続されているか確認してください。

付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分にふき取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済であることを必ずお伝えください。

手順 10

タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P. 248)

手順 11 エンジンを始動する

手順 12

コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する

空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

1 スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧が上昇する

2 1 分程度（低温の場合は 15 分程度）で実際の空気圧表示になる

3 指定空気圧になるまで充填する

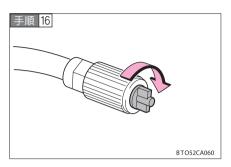
空気圧はコンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

10 分以上（低温の場合は 40 分以上）充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→P. 248、351）

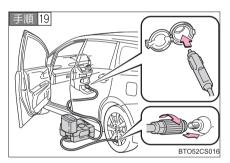
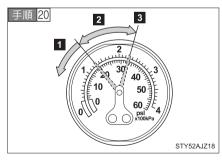
手順 14 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜く。バルブからボトルのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液が漏れる可能性があります。

手順 15 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。

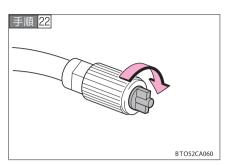
手順 17 いったんボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

手順 18 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5km、速度80km/h以下で安全に走行する

走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する

コンプレッサーのスイッチを数秒間ONにし、OFFにしてから空気圧を確認する

1 空気圧が130kpa未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

2 空気圧が130kpa以上、指定空気圧未満の場合：手順 21へ

3 空気圧が指定空気圧（→P. 248、351）の場合：手順 22へ

手順 21 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5km走行後にあらためて手順 19から実施する

ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。

手順 23 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

手順 24 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行きます

タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

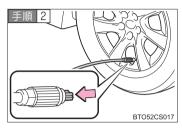
知識

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- パンク補修液には有効期限があります。有効期限はボトルに表示されています。有効期限が切れる前に新しいボトルに交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 外気温度が -30 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着するとシミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などで速やかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

5
トラブルが起きたら

■空気を入れすぎてしまったときは

手順 1 タイヤからボトルのホースを取りはずす

ボトルのホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く

手順 3 ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

手順 4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧を確認する
指定空気圧より低いときは、再度コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限は容器に表示されています。

⚠ 警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ホイール・サスペンション・車体に損傷を与えるおそれがあります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

⚠ 警告

■**応急修理キットについて**

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**パンク補修液について**

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■**パンクしたタイヤを応急修理するときは**

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとボトルのホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気が漏れたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●パンク補修液注入中にボトルのホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

●空気充填後はボトルのホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

警告

■**パンクしたタイヤを応急修理するときは**

●破裂の危険があるので応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを切り、修理を中止してください。

●応急修理キットは長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。60 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■**補修液を均等に広げるための運転について**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
・再度空気圧を測ってください。130kpa　未満の場合はタイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■**応急修理するときは**

●タイヤに刺さった釘やねじを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットには防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。砂埃などを吸い込むと、故障の原因となるおそれがあります。

■**応急修理キットについて**

●応急修理キットは DC12V 専用です。ほかの電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●応急修理キットはビニール袋に入れて砂埃や水を避けて収納してください。

●応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解、改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因となるおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 141, 145）に従っても、またステアリングロックを解除（→P. 142, 146）してもエンジンがかからないときは、次のことをご確認ください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

● 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。

● 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 141, 145）に従って、エンジンをかけてください。

● エンジンイモビライザーシステム*に異常がある可能性があります。(→P. 99)

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

● バッテリーあがりの可能性があります。(→P. 334)

● バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電装品の断線やヒューズ切れなど電気系統に異常がある可能性があります。異常の種類によっては、一時的な処置でエンジンをかけることができます。(→P. 329)

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 334）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキをかける（→P. 154）

手順 2 シフトレバーを P に入れる（→P. 148）

手順 3 “エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードにする（→P. 140）

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏みながら、約 15 秒間“エンジン スタート ストップ”スイッチを押し続ける（→P. 141）

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

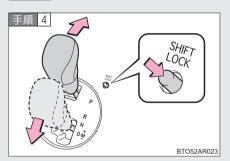
手順 1 パーキングブレーキをかける（→P. 154）

手順 2 スマートエントリー&スタートシステム装着車：

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードにする（→P. 140）

スマートエントリー&スタートシステム非装着車：

エンジン スイッチを “ ACC ” にする（→P. 145）

手順 3 ブレーキペダルを踏む

シフトロック解除ボタンを押す

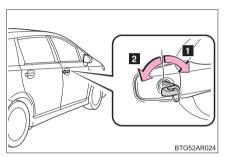
ボタンを押しているあいだはレバーをシフトできます。

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 20)

電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

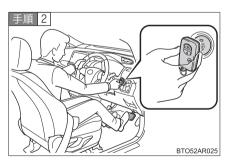
電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 34）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動することができます。

ドアの解錠・施錠

メカニカルキー（→P. 21）を使ってドアを解錠・施錠する

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

モードの切りかえ、エンジン始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

電子キーのトヨタエンブレム面で“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。

手順 3 モードの切りかえ：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押します。“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P. 140）

エンジン始動：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかり踏み込んで “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。

処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

知識

■エンジン停止のしかた

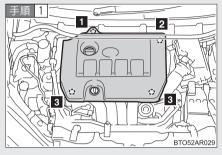
通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P にして “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。（→P. 141）

■電池交換について

このエンジン始動方法は一時的な処置です。
電池が切れたときは、ただちに電池を交換することをおすすめします。
（→P. 277）

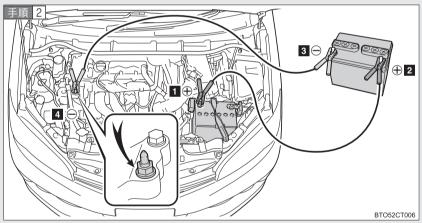
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

エンジン上部のカバーをはずす

1 運転席側後方のクリップをはずす

2 助手席側後方のクリップをはずす

3 前方のクリップをはずす

バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

手順 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、次の操作をします。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてからエンジンをかける

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチをいったん “ ON ” にしてからエンジンをかける

手順 6 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンがかかっていないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーがあがったときの留意事項（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

●バッテリーがあがった直後は、スマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠をしてください。

●バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2 回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ありません。

●車両は常に“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、車両はバッテリーがあがる前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてから行ってください。
バッテリーあがり前の“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない

●ブースターケーブルは“＋”と“－”の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液(酸)が皮膚･衣服･車体に付かないようにする

●必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない。

●誤ってバッテリー液が体に付いたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

●バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近付けない

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 安全な場所に停車し、エアコンを止める

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：

エンジンを停止する。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する

蒸気が出ていない場合：

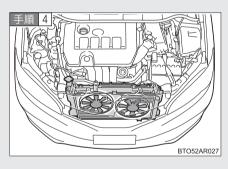
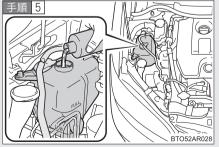
エンジンを停止し、注意してボンネットを開ける

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

ファンが作動している場合：

水温警告灯が消灯したらエンジンを停止する。

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを停止して、トヨタ販売店に連絡する

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水もれを点検する

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給する。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

次の状態がオーバーヒートです。

●水温警告灯が赤色に点滅または点灯したり、エンジン出力が低下する

●エンジンルームから蒸気が出る

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。ボンネットやエンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

●エンジンがかかっているときは、手や着衣（特にネクタイ、スカーフ、マフラーなど）をファンやベルトから離してください。

●エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるときの注意

冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

▶ FF 車（前輪駆動）

手順 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P に入れ、エンジンを停止する

手順 2 前輪周辺の土や雪を取り除く

手順 3 前輪の下に木や石をあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

▶ 4WD 車（4 輪駆動）

手順 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P に入れ、エンジンを停止する

手順 2 前輪前後の土や雪を取り除く

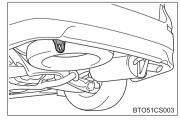
手順 3 前輪の下に木や石をあてがう

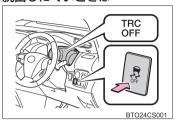
手順 4 エンジンを再始動し、4WD オートモードになっていることを確認する（→P. 179）

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

知識

■緊急用フックについて（寒冷地仕様車）

BTO51CS003

スタックして走行できなくなったときに、緊急的に他車に引っ張り出してもらうために使用します。
この車で他車をけん引することはできません。

■脱出しにくいときは

を押してTRCをOFFにしてください。

▲ 警告

■脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

△ 注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 前輪が空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる

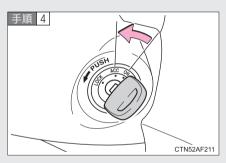
▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

手順 4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

手順 4

スマートエントリー&スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを “ ACC ” にして、エンジンを停止する

手順 4

スマートエントリー&スタートシステム装着車：“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する

手順 5 車を安全な道路脇に停める

警告

■**走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは**

●ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

●スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

車両の仕様 6

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄など）............................ 346

6-2 . カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧.............................. 354

メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄など）

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	60

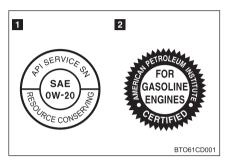
エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正モーターオイル　SN 0W-20※2 —API SN, RC/ILSAC　GF-5, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル　SN 5W-20 —API SN, RC/ILSAC　GF-5, SAE 5W-20 トヨタ純正モーターオイル　SN 5W-30 —API SN, RC/ILSAC　GF-5, SAE 5W-30 トヨタ純正モーターオイル　SN 10W-30 —API SN, RC/ILSAC　GF-5, SAE 10W-30	3.9	4.2

※ 1：エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※ 2：0W-20 は、新車時に充填されている、省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※：0W-20 は新車時に充填されている、省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　-12 ℃ 濃度 50%　-35 ℃	3ZR-FAE	5.5
	2ZR-FAE	5.5

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	エンジン	駆動方式	容量 [L] (参考値※)
トヨタ純正 CVT フルード　FE	3ZR-FAE	FF（前輪駆動）	8.7
	2ZR-FAE	FF（前輪駆動）	8.0
		4WD（4 輪駆動）	7.9

※容量は参考値です。交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

注意

■**CVT フルードについて**

上記で指定のトヨタ純正フルード以外をご使用の場合、変速不良、振動など不具合発生や破損に至る恐れがあります。

リヤディファレンシャル（4WD 車）

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W − 90)	0.5

トランスファー（4WD 車）

指定銘柄	容量 [L] （参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W − 90)	0.8

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	72 以上

※ エンジン回転時に 294 N (30 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300 N (30.6 kgf) のときのノッチ※数	7 ～ 10

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）	3.5

タイヤ・ホイール

▶ 標準タイヤ

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">タイヤサイズ</th><th rowspan="2">ホイール
サイズ</th><th colspan="2">タイヤが冷えているときの空気圧
kPa (kg/cm^2)</th></tr>
<tr><th>前輪</th><th>後輪</th></tr>
<tr><td rowspan="2">195/65R15
91S</td><td>FF
（前輪駆動）</td><td rowspan="2">15 × 6J</td><td colspan="2">230 (2.3)</td></tr>
<tr><td>4WD
(4 輪駆動）</td><td colspan="2">240 (2.4)</td></tr>
<tr><td colspan="2">195/60R16 89H</td><td>16 × 6J</td><td colspan="2">230 (2.3)</td></tr>
<tr><td colspan="2">215/50R17 91V</td><td>17 × 7J</td><td colspan="2">220 (2.2)</td></tr>
</table>

▶ 応急用タイヤ

<table>
<tr><th rowspan="2">タイヤサイズ</th><th rowspan="2">ホイールサイズ</th><th colspan="2">タイヤが冷えているときの空気圧
kPa (kg/cm^2)</th></tr>
<tr><th>前輪</th><th>後輪</th></tr>
<tr><td>T135/80D16
101M</td><td>16 × 4T</td><td colspan="2">420 (4.2)</td></tr>
</table>

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ（ディスチャージヘッドランプ装着車） ハイビーム（バルブタイプ：HB3） ロービーム（ディスチャージヘッドランプ：D4S）	 60 35
	ヘッドランプ（ハロゲンヘッドランプ装着車） ハイビーム（バルブタイプ：HB3） ロービーム（バルブタイプ：H11）	 60 55
	車幅灯	5
	フロントフォグランプ*（バルブタイプ：H16）	19
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	サイド方向指示灯／非常点滅灯	5
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	制動灯	LED ※
	尾灯	LED ※
	後退灯	16
	ハイマウントストップランプ	LED ※
	番号灯	5
車内	ルームランプ	8
	パーソナルランプ	8
	ラゲージルームランプ	5

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

車両仕様

<table>
<tr><th>型式</th><th>エンジン</th><th>駆動方式</th></tr>
<tr><td>ZGE22W</td><td>3ZR-FAE
(2.0L ガソリン)</td><td>FF(前輪駆動)</td></tr>
<tr><td>ZGE20G</td><td rowspan="4">2ZR-FAE
(1.8L ガソリン)</td><td rowspan="2">FF(前輪駆動)</td></tr>
<tr><td>ZGE20W</td></tr>
<tr><td>ZGE25G</td><td rowspan="2">4WD(4 輪駆動)</td></tr>
<tr><td>ZGE25W</td></tr>
</table>

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステム (→P. 24)	スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）	あり	なし
	作動の合図 （ブザー音量調整）	レベル 7	レベル 1 ～ 6
			なし
ワイヤレスドアロック (→P. 35)	ワイヤレス機能	あり	なし
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
			120 秒
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）（スマートエントリー&スタートシステム装着車のみ）	あり	なし
	作動の合図 （ブザー音量調整）（スマートエントリー&スタートシステム装着車のみ）	レベル 7	レベル 1 ～ 6
			なし
	半ドア警告ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車のみ）	あり	なし

<table>
<tr><th>項目</th><th>機能の内容</th><th>初期設定</th><th>変更後</th></tr>
<tr><td rowspan="2">ランプ自動点灯・消灯システム
(→P. 170)</td><td>ライトセンサーの感度調整</td><td>レベル３</td><td>レベル１～５</td></tr>
<tr><td>ランプを点灯するまでの時間</td><td>標準</td><td>長め</td></tr>
<tr><td rowspan="6">イルミネーテッドエントリーシステム
(→P. 209)</td><td rowspan="2">消灯までの時間</td><td rowspan="2">15 秒</td><td>7.5 秒</td></tr>
<tr><td>30 秒</td></tr>
<tr><td>解錠時の作動</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ OFF 後の作動
(スマートエントリー&スタートシステム装着車のみ)</td><td rowspan="2">あり</td><td rowspan="2">なし</td></tr>
<tr><td>エンジン スイッチ “ LOCK ” 後の作動
(スマートエントリー&スタートシステム非装着車のみ)</td></tr>
<tr><td>検知エリア接近時の作動</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
</table>

さくいん

略語一覧……358
五十音順さくいん……359
症状別さくいん……367

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
DISP	ディスプレイ
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
INT	インターミッテント
LED	ライトエミッティングダイオード
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
S-VSC	ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール
TRC	トラクションコントロール

五十音順さくいん

あ

アームレスト 47, 53
アクセサリーソケット................ 229
アシストグリップ......................... 233
アンチロックブレーキシステム
（ABS）..................................... 184
アンテナ 240

い

イグニッションスイッチ.. 140, 145
イベントデータレコーダー 16
イルミネーテッドエントリー
システム.................................. 210
ルームランプ（室内灯）
スイッチ.................................. 213
インナーミラー............................. 82

う

ウインカー（方向指示灯）
W 数 352
スイッチ.................................. 153
電球の交換................... 264, 265
ウインドウ
ウォッシャー............... 173, 177
パワーウインドウ 86
ウインドウロックスイッチ 86
ウインドシールドデアイサー 208
ウォーニングランプ（警告灯）... 160
ウォッシャー
液の補給.................................. 281
スイッチ...................... 173, 177
タンク容量............................. 350
冬の前の準備・点検 192
運転
寒冷時の運転.......................... 192
正しい姿勢.............................. 100
手順 130
運転席シートベルト
非着用警告灯............................. 297

え

エアコン
エアコンフィルターの交換 283
オートエアコン....................... 198
ナノイー 202, 204
エアバッグ.................................. 102
一般的な警告 107
お子さまのための注意 107
カーテンシールドエアバッグに
関する警告............................ 108
カーテンシールドエアバッグの
作動条件 103
改造・分解 110
警告灯 296
サイドエアバッグに
関する警告............................ 109
サイドエアバッグの
作動条件 103
作動条件 103
正しい姿勢 100
配置 102
エレクトリックパワー
ステアリング（EPS）............... 184
エンジン
イグニッション
スイッチ 140, 145
エンジン回転計
（タコメーター）..........156, 158
エンジンがかからない............328
エンジン警告灯.......................296
エンジンスイッチ.........140, 145
オーバーヒート.......................338
かけ方 141, 145
ボンネット 251
エンジンイモビライザーシステム 99
エンジンオイル
冬の前の準備・点検................ 192
容量 347

お

応急用タイヤ（スペアタイヤ）
- 空気圧 351
- スペアタイヤ 301

オートエアコン 198

オートマチックトランスミッション（A/T）
- オートマチックトランスミッション 148
- シフトレバーがシフトできない 330
- スポーツシーケンシャルシフトマチックモード 150

オートレベリングシステム 171

オーバーヒート（エンジン） 338

オープナー
- 給油口 95
- ボンネット 251

お子さまの安全のために
- ウインドウロックスイッチ 86
- エアバッグに関する警告 107
- お子さまのシートベルト着用 77
- シートベルトに関する警告 78
- チャイルドシート 111
- チャイルドシートの固定 121
- チャイルドプロテクター 39
- キーの電池に関する警告 279
- バックドアに関する警告 44
- バッテリーに関する警告 337
- パワーウインドウに関する警告 88

オドメーター（積算距離計） 157, 159

か

買い物フック 232

カーテンシールドエアバッグ 102

カードホルダー 223

外気温表示 198

カスタマイズ機能 354

ガソリンスタンドでの情報 372

カップホルダー 218

ガレージジャッキ 253

き

キー
- エンジンスイッチ 140, 145
- キー 20
- キーナンバー 20
- キーレスエントリー（ワイヤレスドアロック） 35
- キーを無くした 331
- 電子キー 20
- 電子キーの電池が切れた 332
- 電池の交換 277
- メカニカルキー 21

給油口 95

緊急時の対処
- イベントデータレコーダー 16
- エンジンがかからない 328
- オーバーヒートした 338
- キーを無くした 331
- 警告灯がついた 294
- けん引 290
- 故障したときは 286
- シフトレバーがシフトできない 330
- 車両を緊急停止する 342
- スタックした 340
- 電子キーの電池が切れた 332
- 発炎筒 288
- バッテリーがあがった 334
- パンクした 301

く

空気圧（タイヤ）........................... 351
区間距離計
（トリップメーター）....... 157, 159
クルーズコントロール................ 180
グローブボックス........................ 215

け

計器（メーター）
メーター....................... 156, 158
警告灯
SRS エアバッグ.................... 296
アンチロックブレーキ
システム（ABS）................ 296
エンジン................................. 296
シートベルト非着用 297
充電 295
水温 295, 297
スマートエントリー＆
スタートシステム................ 298
ディスチャージヘッドランプ
オートレベリング................ 296
燃料残量................................. 297
パワーステアリング 296
半ドア.................................... 297
プリテンショナー 296
ブレーキ................................ 294
ブレーキアシスト 296
油圧 295
4WD 296
警告ブザー
シートベルト非着用 297
シフトダウン制限 151
ブレーキ................................ 294
化粧用（バニティ）ミラー 227
けん引... 290

こ

交換
キーの電池 277
タイヤ 301
電球... 256
ヒューズ 270
工具（ツール）...................301, 314
後退灯（バックアップランプ）
W 数.. 352
電球の交換 266
小物入れ.. 222
コンソールボックス 216
コンライト
（自動点灯・消灯装置）............... 170

さ

サイドエアバッグ 102
サードシート................................... 55
サンバイザー................................ 226

し

シート
シートアレンジ......................... 59
正しい運転姿勢...................... 100
チャイルドシートの固定........ 121
調整 47, 49, 55
調整に関する警告 48, 54, 56
手入れ.................................... 244
ヘッドレスト............................ 57
シートベルト
お子さまの着用......................... 77
緊急時シートベルト
固定機構................................. 77
シートベルト警告灯 297
シートベルト
プリテンショナー.................. 76
清掃・手入れ......................... 244
正しい着用.............................. 73
チャイルドシートの固定........ 121
調整 73
妊娠中の方の着用 79
室内灯（ルームランプ）
W 数 352
スイッチ................................ 213
シフトレバー
オートマチックトランス
ミッション.......................... 148
シフトレバーが
シフトできない 330
シフトロックシステム 330
ジャッキ
ガレージジャッキ 253
車載ジャッキ............... 301, 314
ジャッキハンドル............ 301, 314
車幅灯
W 数......................................352
電球の交換 263
ランプスイッチ...................... 168
車両型式.....................................353
車両仕様（スペック）..................346
収納装備.....................................214
手動光軸調整ダイヤル................. 169
助手席アッパートレイ.................215
助手席シートベルト
非着用警告灯 297

す

水温警告灯..............163, 295, 297
水温表示灯.................................. 162
スイッチ
ウインドウロックスイッチ 86
エンジンスイッチ......... 140, 145
ドアロックスイッチ 38
パワーウインドウスイッチ 86
フォグランプスイッチ 172
ランプスイッチ...................... 168
ワイパー＆ウォッシャー
スイッチ 173, 177
スタック
スタックした 340
ステアリングアシステッドビークル
スタビリティコントロール（S-VSC）. 184
ステアリングホイール（ハンドル）
オーディオスイッチ 234
シフトパドル 150
調整...81
スピードメーター
（速度計）......................... 156, 158
スペアタイヤ（応急用タイヤ）
空気圧 351
収納場所 301
スペック（車両仕様）..................346

スポーツシーケンシャル
シフトマチックモード............. 150
スマートエントリー＆
スタートシステム
エンジンの始動...................... 140
ドアの解錠・施錠..................... 25
バックドアの解錠・施錠.......... 25

せ
清掃
外装...................................... 240
シートベルト......................... 244
内装...................................... 244
セカンドシート.............................. 49
積算距離計
（オドメーター）.............. 157, 159
洗車.. 240
センタートレイ........................... 222
前照灯（ヘッドランプ）
W 数...................................... 352
スイッチ................................ 168
ディスチャージヘッドランプに
関する警告.......................... 269
電球の交換.................. 258, 260

そ
速度計
（スピードメーター）...... 156, 158

た
タイヤ
空気圧.................................. 351
交換...................................... 301
スペアタイヤ......................... 301
チェーン................................ 192
点検...................................... 246
パンク応急修理キット........... 313
パンクした.................. 301, 313
冬用タイヤ............................ 192
ローテーション..................... 246
タコメーター..................... 156, 158

ち
チェーン（タイヤチェーン）........ 192
チャイルドシート
ISOFIX バーでの固定............. 123
シートベルトでの固定............ 122
チャイルドプロテクター................. 39
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）.............. 154

つ
ツール（工具）................... 301, 314

て
手入れ
外装.. 240
シートベルト........................... 244
内装.. 244
テールランプ（尾灯）
W 数....................................... 352
スイッチ.................................. 168
デッキボード................................ 236
デッキフック................................ 237
電球（バルブ）
W 数....................................... 352
交換.. 256
電子キー
電池が切れた........................... 332

と
ドア
ドアガラス 86
ドアミラー 83
ドアロック 38
ドアガラス 86
ドアミラー
調整 83
盗難防止システム
エンジンイモビライザーシステム 99
時計 228
ドライブモニター 164
トラクションコントロール（TRC） 184
トリップメーター（区間距離計） 157, 159

な
ナノイー 202, 204

に
荷物
積むときの注意 190

ね
燃料
ガソリンスタンドでの情報 372
給油 95
種類 346
燃料計 156, 158
容量 346

は
パーキングブレーキ（駐車ブレーキ） 154
パーソナルランプ
W 数 352
スイッチ 211
ハザードランプ
W 数 352
スイッチ 287
電球の交換 264, 265
発炎筒 288
バックアップランプ (後退灯)
W 数 352
電球の交換 266
バックドア 41
バッテリー
バッテリーがあがった 334
冬の前の準備点検 192
バニティ（化粧用）ミラー 227
バルブ（電球）
W 数 352
電球の交換 256
パワーウインドウ 86
パンク
パンクした 301, 313
番号灯
W 数 352
スイッチ 168
電球の交換 267
ハンドル（ステアリングホイール）
調整 81

ひ
非常点滅灯
W 数 352
スイッチ 287
電球の交換 264, 265
尾灯（テールランプ）
W 数 352
スイッチ 168
ヒューズ 270
表示灯 160

ふ
フォグランプ
W 数 352
スイッチ 172
電球の交換 261
フック
けん引フック 290
冬用タイヤ 192
ブレーキ
パーキングブレーキ 154
ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる 135
ブレーキアシスト 184
フロアマット 230
フロントシート
調整 47
フロント方向指示灯
W 数 352
スイッチ 153
電球の交換 264
フロントフォグランプ
W 数 352
スイッチ 172
電球の交換 261

へ
ヘッドランプ（前照灯）
W 数 352
スイッチ 168
ディスチャージヘッドランプに関する警告 269
電球の交換 258, 260
ヘッドレスト
調整 57

ほ
方向指示灯（ウインカー）
W 数 352
スイッチ 153
電球の交換 264, 265
ホーン 155
ボトルホルダー 220
ボンネット 251

ま
マルチボックス 222

み
ミラー
インナーミラー 82
ドアミラー 83
バニティ（化粧用）ミラー 227

む
ムーンルーフ 89

め
メーター（計器） 156, 158
メンテナンス
メンテナンスデータ 346

ゆ
ユーザーカスタマイズ 354

よ
4WD オートモードスイッチ 179

ら
ランプ
W 数 352
室内灯 209
電球の交換 256
パーソナルランプ 211
フォグランプ 172
ヘッドランプ（前照灯） 168
方向指示灯（ウインカー） 153
ラゲージルーム
デッキフック 237
デッキボード 236
ラゲージボックス 237
ラゲージルームランプ 42
ラゲージルームランプ
W 数 352

り

リヤウインドウデフォッガー 206

リヤシート

調整 49, 55

リヤ方向指示灯

W 数 352

スイッチ................................. 153

電球の交換.............................. 265

リヤワイパー 177

リヤウインドウデフォッガー 206

る

ルームランプ（室内灯）

スイッチ................................. 213

れ

冷却水

冬の前の準備・点検 192

容量 349

冷却装置

エンジンオーバーヒート........ 338

わ

ワイパー

スイッチ....................... 173, 177

ワイパーデアイサー..................... 208

ワイヤレスドアロック

電池交換.................................. 277

リモコン..................................... 35

症状別さくいん

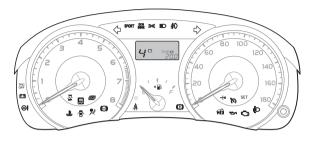
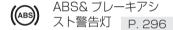
症状	ページ	参照先
タイヤがパンクした	P. 301 P. 313	パンクしたときは
エンジンがかからない	P. 328	エンジンがかからないときは
	P. 99	エンジンイモビライザーシステム
	P. 334	バッテリーがあがったときは
	P. 332	電子キーが正常に働かないときは
シフトレバーが動かない	P. 330	シフトレバーがシフトできないときは
水温警告灯が点滅または点灯した エンジンルームから蒸気が立ちのぼった	P. 338	オーバーヒートしたときは
キーを無くした	P. 331	キーを無くしたときは
バッテリーがあがった	P. 334	バッテリーがあがったときは
ドアが施錠できない	P. 24 P. 35 P. 38	ドア
ぬかるみや砂地などで動けなくなった	P. 340	スタックしたときは
警告灯が点灯、点滅した	P. 294	警告灯がついたときは

■メーター

BTO61CS003

■警告灯一覧

ブレーキ警告灯 P. 294

ABS& ブレーキアシスト警告灯 P. 296

燃料残量警告灯 P. 297

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 P. 296

半ドア警告灯 P. 297

エンジン警告灯 P. 296

充電警告灯 P. 295

油圧警告灯 P. 295

スリップ表示灯（点灯） P. 296

運転席シートベルト非着用警告灯（点滅） P. 297

PASSENGER 助手席シートベルト非着用警告灯（点滅） P. 297

4 WD 4WD 警告灯 P. 296

パワーステアリング警告灯 P. 296

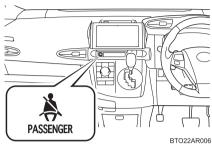
スマートエントリー&スタートシステム警告灯 P. 298

ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯 P. 296

水温警告灯（赤色点灯） P. 295

水温警告灯（赤色点滅） P. 297

クルーズコントロール表示灯（点滅） P. 296

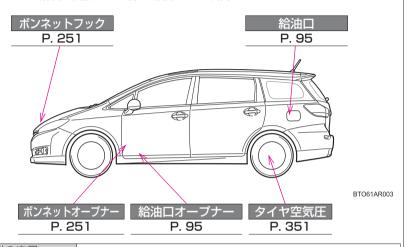
■センターパネル

警告音が鳴った

■警告灯の点灯、点滅をご確認ください。(→P. 294)

■警告灯が点灯、点滅していないとき、または車内外で警告音が鳴ったときは、以下のことをご確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車/駐車中	ドアを開けたとき	P. 31
	車外に出たとき	
	スマートエントリ＆スタートシステムでロックスイッチを押したとき	
走行中	シフトレバーをRにしたとき	P. 151
	シフトダウンしたとき	P. 151
	ブレーキを踏んだとき	P. 135

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

<table>
<tr><td>燃料の容量
（参考値）</td><td>60L</td></tr>
<tr><td>燃料の種類</td><td>無鉛レギュラーガソリン　P. 96, 346</td></tr>
<tr><td>タイヤが冷えているときの空気圧</td><td>標準タイヤ
<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">タイヤサイズ</td><td colspan="2">空気圧 [kPa (kg/cm^2)]</td></tr>
<tr><td>前輪</td><td>後輪</td></tr>
<tr><td rowspan="2">195/
65R15
91S</td><td>FF(前輪駆動)</td><td colspan="2">230 (2.3)</td></tr>
<tr><td>4WD(4 輪駆動)</td><td colspan="2">240 (2.4)</td></tr>
<tr><td colspan="2">195/60R16 89H</td><td colspan="2">230 (2.3)</td></tr>
<tr><td colspan="2">215/50R17 91V</td><td colspan="2">220 (2.2)</td></tr>
</table>
応急用タイヤ：420 (4.2) kPa (kg/cm^2)</td></tr>
<tr><td>エンジンオイル容量（参考値）</td><td>オイルのみ交換時
3.9 L
オイルとフィルター交換時
4.2 L</td></tr>
<tr><td>エンジンオイルの種類</td><td>トヨタ純正モーターオイル
・SN 0W-20 (API SN, RC/ILSAC　GF-5、SAE 0W-20)
・SN 5W-20 (API SN, RC/ILSAC　GF-5、SAE 5W-20)
・SN 5W-30 (API SN, RC/ILSAC　GF-5、SAE 5W-30)
・SN 10W-30(API SN, RC/ILSAC　GF-5、SAE 10W-30)</td></tr>
</table>

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール **0800-700-7700**

オープン時間　365日　9：00～18：00

所在地　〒450－0002　**名古屋市中村区名駅四丁目10の27**
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

ウ-73

M　68019
01999ー68019
NAB-2012年４月２日
2012年４月９日　初版
ウィッシュ